素庵日記

春野一人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

素庵日記

【Ｎコード】

Ｎ５５０４Ｘ

【作者名】

春野一人

【あらすじ】

春野一人（素庵）の日記　つれづれなるままに、日々の良からぬ事を書きしるせり。一種のゴミ箱、パンドラの箱。悪臭あり、要注意！

１１年１０月１３日

２０１１年１０月１３日　木曜日　それでも、暑い日がたまにある。昨晩、日本テレビ、夕方のニュース番組「エブリー」に、素庵め登場。信州妻恋の高原のキャベツ畑で、わが恐妻に愛を叫ぶという、おぞましい画面が繰り広げられました。素庵、ちょっと太めだが、わが愚妻の友、曰く「かっこいいじゃん」に愚かな素庵、たちまち気を良くする。しかし醜態が展開するのではという思いで緊張したのであろうか、疲れ果て、お子様就寝時間の午後八時に寝てしまった・・・。

さて、カルカヤの歌を書き終えたあと素庵こと春野一人は毎日酒に溺れ、女を追いかけ回し・・・と、言うことでもなく、次作は歴史小説の予定なので、あらすじ、登場人物、時代のイメージを、下手な字でノートに書き散らしているところなのであります。必ずや近々に、再登場しますので、乞うご期待！

先日は、映画、「猿の惑星・創世記」を見ました。前作「猿の惑星」「続猿の惑星」は名作でしたが、今度の新作も見応えのあるものでしたな。

１１年１０月１４日　（金）　晴

１０月１４日　厚生労働省は１０月１１日の社会保障審議会（厚労相の諮問機関）の年金部会で三つの案を提示した。厚労省は年内に改革案を取りまとめる予定だという。三つの案と言うのは、？厚生年金の支給開始年齢を３年に１歳ずつ引き上げるというスケジュールを「２年に１歳ずつ」に前倒しして、６５歳にひき上げる。？厚生年金を６５歳まで引き上げた後、基礎年金も支給開始年齢を３年に１度引き上げて、最終的には６８歳支給開始とする。？２年に１歳ずつまえ引き上げを早め、さらに２年に１歳ずつ引き上げて、基礎部分も含め６８歳支給開始とする。

これに先立つ、六月の民主党の社会保障に関する論議では７０歳までの引き上げに言及した論もあったと言う！

こうした正に逃げ水といわれる、詐欺まがいのことが、いとも易々行われる事に素庵は怒りを感じる。

こんな事では、年金に対する国民の信頼は低下する一方ではなかろうか。財源が足りないと言うことで、このような論が、慎重な国民的議論もなく発表されて良いものであろうか。やはり民主党もだめだ。

１０月１５日　（土）　小雨

久々の雨模様。震災による原発の駆動停止により、妻の仕事が日産関係のため、土・日出勤になっていた。それで私の土・日の休日とあわず、夫婦すれ違い休日となってしまっていた。十月に入り、やっとその魔法も解けて、仲良く（！）休日が一緒になった。

二人連れだっての遠出も三ヶ月なかったので、今日は日帰り温泉行である。常磐道・谷和原（やわら）ＩＣより車で１０分の「きぬの湯」が目指す場所である。入浴料は土・日１２００円（回数券利用で千円）。源泉かけ流しので塩化物質泉・３６．６度・毎分２２９Ｌ・、黄色を帯びた透明な泉質は東北に多い、非常に和む香りを持っていて良いグレードである。東京から車で３０分で、この良質な温泉に出会える事は貴重と言える。施設も広々と綺麗で、妻はボディケア・足マッサージ込み一時間６０００円で
強固な疲れが抜けたと満足のようす。えびす生ビールは香り高く・こだわりの料理も旨く・ボリューム・お値段は納得のもの。又、嬉しい充実した産地直売コーナーもある。周辺は筑波エクスプレスによってできた新造の住宅が散在して、若干郊外の住宅地という感じだが、広々とした感じは消えていない。駐車場は２３０台と余裕があるが、電車で行くなら常磐線＆筑波エクスプレス守谷駅から要予約で送迎バスがあるそうだ。電話は０２９７－２０－３７５１である。

１０月１８日（火）

１０月１８日（火）日曜日、例によって「ちい散歩」をする予定だったが、なんと３０度近い、真夏日。なまくら素庵は、さっさと戦線を撤退し、シネコンに逃げ込んだ。シネコンで目についた「ツレがうつになりまして」を見ることにした。この作品は細川貂々《ほそかわてんてん》の原作で、これは鬱病になった夫、望月昭さんとの闘病記をイラスト付で描いて２００６年にベストセラーとなった幻冬舎刊「ツレがうつになりまして」の映画化だという。監督は人情劇に定評がある佐々部清。暗い話なのかと思ったが、タイトルのおかしさを裏切らず、暖かい映画に仕上がっていた。この映画には忘れられられない良い言葉がたくさん転がっていて春野一人のペンネームで作品を書いている素庵に切り込んでくる言葉があった。売れない漫画家である、ツレの妻は、職場の親しい上司にこう言われる「あんたは、あんたが書いてる作品が本当に面白いと思って書いているかね？そのよう漫画が人を引きつけると思うかね？」そこでツレの妻は書くべき作品のヒントを得るのである。素庵も突然春野になって、そうだそうだとこのシーンにうなずいてしまったのである。結論、この映画は過酷な企業社会の荒野に咲く、癒しの美しい花である。

１０月１９日（水）

仕事の後、午後六時過ぎ、市立図書館に日本書紀と白村江を扱った２冊の本を返した。読むのに時間がかかったので、返却期限を過ぎてしまった。さて、今度は「日本書紀は独立宣言書だったー明かされた建国の謎ー」　山科誠著　昭和２０年　金沢市生まれ　慶大経済学部卒　昭和４２年小学館販売を経て昭和４４年バンダイ入社　昭和５５年同社代表取締役就任。角川書店平成八年刊。二冊目は、吉川弘館・・・いつも資料としてお世話になりますなあ、現代語訳吾妻鏡は良かった！・・・　歴史ライブラリー２２９の「古事記のひみつ・歴史書の成立」平成十九年刊　三浦佑之（すけゆき）（昭和２１年三重県生まれ。昭和５０年千葉大学院人文社会科学研究科教授。著書に口語訳古事記・万葉びとの「家族」誌・等。三冊目は「日本書紀のすべて」　新人物往来社平成３年刊　武光誠著（本に著者略歴なし。素庵調べ・１９５０年生まれ・日本史学者、明治学院大学教授。山口県生まれ。東大大学院国史学専攻、１９８０年明治学院大学に勤務。２００８年東大博士課程を修了「古代太政官制の研究」で文学博士、明学大教養教育センター教授となった。およそ２００冊の著書があり、研究者として知られている）

まさに、さまざまな人が古代史の解明に取り組んでいるのだなあと思う。素庵も虎の威を借る狐として、のこのこついて行くことにしよう。

そのほか、日本書紀の研究書である「釈日本紀」「日本書紀私記」を予約して帰宅した。夕飯は、ブリの煮付け、なめこ味噌汁、レタスのサラダ、発泡酒３５０ｍｌ１缶である。

１０月２０日（木）

東京は２０日から突然冷え込んだ。山の神に、ブレザーを着て行けと言われていたが、素庵、南方系なのに（本当にそうであろうか・・・母の父は富山の百姓の末っ子であったから、神田のテーラーに丁稚（でっち）として上京した人で、私の性格、体質は、その祖父に似ているらしい。これで言えば、むしろ出雲に多い、新羅系統の血を受けているかもしれない・・・だから北方系なのかも知れない。父方は鎌倉時代から川崎の多摩川に面した幕府の重要な城があったところに居を構えた一族のようで、鎌倉幕府をもり立てた稲毛氏臣下の関東武士団の一派であったと思われる。しかもチジレ毛で鼻がでかいアロハ民族のようであるから、黒潮に縁のある血筋ではなかろうか。父、母の母についてはともに不詳である）寒さには強い。シャツの上に、ポロを着ただけで一日すごした。仕事の他は、歴史書・歴史書に埋もれている。新しい話のためのあらすじもまだ、まとまっていない。日本書紀と古事記の並立というミステリーを追いかけている段階であるからだ。この謎が解けないと話が始まらないのである。

（書く小説については謎のままに残しておこう）

１０月２１日（金）　雨

今日は朝から雨である。図書館から借りてきた歴史本三冊にやっと目を通し終えた。三冊中、取るべき著作は「古事記のひみつ」三浦佑之（みうら・すけゆき）著　吉川弘文館刊であった。真摯に古事記と日本書紀を比べ、独断に入り込まず、よくあるトンデモ本にならず、まさに「古事記」を分析した優れた著作と思えた。「日本書紀は独立宣言書だった」　山科誠著は、すごい独断で、推論の進め方には優れたところが見えるが、なにしろ独断が多すぎて、ほとんどトンデモ本化している。参考にはなりえないと思えた。「日本書紀のすべて」　武光誠編　新人物往来社刊は、いわば広く浅くの本、十人の人達による、日本史入門書といったところだ。竹光氏の担当はわずか２０ページあまり、「日本書紀と古事記も同時期に並立しているが、古事記も朝廷に必要な書であった」と簡単に片付けられてしまっている。２００冊に及ぶ著作がある学会では著名な先生であるらしいが、首を傾げてしまう研究態度ではなかろうか。

さて「古事記のひみつ」により、素庵の愚鈍な頭も整理されて、少し前に進むことができた。三冊の本の前に借りてきた本の名を記さなかったが、その一冊は「日本書紀の謎を解く・述作者は誰か」森博達（もり・ひろみち）（１９４９年兵庫県生まれ、大阪外国語大学中国学科卒。名古屋大学大学院博士課程（中国文学専攻）中退。愛知大学専任講師、同志社大学助教授、大阪外国語大学助教授を経て、１９９９年に京都産業大学教授）は日本書紀に用いられている言葉によって、著述者を推理する方法を採っている。それによって、書記の各巻が、中国人の手によるものか、日本人によるものかを、見事に分析している。小耳にはさんだ話によると、この著は名作で知られているということである。

このようにして、謎は徐々に明らかにされてきているが、道は未

だ遙かに遠い。素庵が日本古代に強く惹かれるのは、謎が多いからである。さらに日本書紀が謎かけ問答をしかけてくるから余計面白いのである。・・・今は古い小説になってしまったが「成吉思汗の秘密」　高木彬光著　昭和３５年　光文社刊　は、歴史マニアには心躍る名作であった。なにしろ源義経が元初代皇帝ジンギスカンであると言うことを、入院中で閑な東大法医学助教授が論証するという話であり、その論証が、若き素庵にはたまらなく面白かった。この土日はこれを再読したいと思っている。

高木彬光　１９２０年青森市生まれ１９５５年没の推理小説作家。四代続く医者の家系。東大進学に失敗、京都帝大工学部冶金学科卒。一高在学中、家は破産して一家離散、親族の援助で学業を続けた。京都大学卒業後、中島飛行機に就職したが太平洋戦争終結で失職。１９４７年骨相占師の勧めにより小説家をめざす。できあがった「刺青殺人事件」が江戸川乱歩に認められ、１９４８年出版。代表作に「能面殺人事件」（１９５０年、第三回探偵作家クラブ賞）「わが一高時代の犯罪」「人形は何故殺される」「白昼の死角」「破戒裁判」

氏の歴史ミステリー「邪馬台国の秘密」「古代天皇の秘密」は、いずれも入院中の教授が謎にいどむという小説である。こうした推理小説の書き方は、ジョセフィン・テイの「時の娘」（１９５１年）が原型で、病院のベッドで動けない探偵が限られた情報で推理する話というので「ベッド・ディティテクティブ」とよばれている。

氏はかなりユニークな人で、易、占いを信じていて、手相の本として「手相占い」昭和５６年角川文庫がある。また大学で学んだ冶金の知識を生かして、秋田で鉱山の発掘に熱中したという（鉱山士の事を山師とも言うね！笑い）。この手相の本は、素庵も愛読したが、今日の日まで氏の著作と知らなかった！似た名前であるなとは思っていたのだが・・・（苦笑）。

１０月２２日（土）雨のち晴

今日は、「ちい散歩」入谷界隈（いりやかいわい）に従って散歩すべく昼前にＪＲ上野駅に降り立った。しかし外に出てみると、降りしきる雨。意気地のない素庵夫妻であるから、早速、計画撤回。上野駅で昼食ということになったが、あいにくほどよい食事どころ見つけられず、東京駅に行こうと言うことになった。そして東京駅は構内北側の「キッチンストリート」（食事どころが集まっている）の明石たこ焼き店「にしむら日和（ひより）」に入り込んだ。お通し２００円×２オム焼きそば１０００円×１・明太チーズ餅、お好み焼１０００円×１・明石たこ焼き９５０円×１・キリン瓶ビール・梅酒ソーダ割り・明石鯛（清酒）１合弱×１・漬け物、ぬか床３０年もの５５０円×１を食べる。家に帰ってネットでの店の評判はかんばしいものではなかったが、お新香は絶品！日本酒明石鯛（たぶん純米酒、今度行ったら聞いてみたい）が薄く黄色みかかった、濃厚な江戸時代的な良い酒、焼きそば、お好み焼も非常に美味しかった。二人はカウンターの前で勝手なオダをあげたが、焼手の６０代と思われる、下町風おばさんも、おじさんも、ほどよい客あしらいで心地よく酔うことができたのであった。鯨焼とかキノコ五種焼とか煮こごりなど旨そうなおつまみもある。銀座店もあるというので今度行ってみようと思う。

さて、読んでいる「成吉思汗の秘密」大変面白い。日本国史大系８（日本書紀私記・釈日本紀・日本逸史）Ｂ５サイズで厚さ１０センチで全て漢字！を借りてきた。鋭意解読しなくては！（汗）

１０月２３日（日）　暑

朝方三時に目が覚めて、七時までに「成吉思汗（じんぎすかん）の秘密」を読み切った。義経が成吉思汗になったという大胆な設定ながら、考証を見事に固めている。まさに、こうした質の高い考証は近頃のトンデモ本の作家の遠く及ばないところである。主人公の神津がマルコポーロの「東方見聞録」の書中に気になる記述があることを以下のように紹介している。

元の皇帝フビライが成吉思汗から聞いた話としてマルコポーロに伝えた。

成吉思汗が若い頃、ある合戦に敗北して、ただ一人フクロウが住む古い大木の空洞に逃れた。そこへ敵兵が追撃してきて、洞窟に入ろうとした兵を、成吉思汗に心を寄せる敵の重臣が、「ここには人間はおらんフクロウがおるだけだ」と押し留めた。それで彼は九死に一生をえて助かった。

この話は、平家追討に立ち上がった源頼朝の小田原、石橋山での苦戦の経験とそっくりである（鎌倉正史・吾妻鏡に書かれている）それが「東方見聞録」に載っていることは実に不思議としか言いようがない。（素庵は石橋山古戦場に行ったことがある！伊豆の海から急に立ち上がったミカン山といった所である）このような驚くべき史実を「成吉思汗の秘密」は数多く捜して題材に持ってくるのは作者の努力のたまものなのである。これはただの、トンデモ本とは違う、歴史研究本とさえ言える優れた本なのである。・・・「東方見聞録」を早速手に入れて、この部分たしかめてみたい。

十時過ぎ、家を出て、「ちい散歩」本郷界隈を歩いてみる。何で

も夏日とか、暑い。東大生協の食堂で、昼食。素庵は中華丼４００円、恐妻は五目寿司と天ぷら・鰆(さわら)焼き物のセット、５５０円。味、ボリュームとも納得の品だった。・・・しかし東大の施設は実にボロである、日本国の指折りの大学がこのような有様であるのは実に嘆かわしい。一千兆円の借金が、このような所に影を投げているだ！・・・

それはさておき、街歩きは身体を鍛え、かつ余分に楽しめる、ちい散歩は良い。このあたり傾いた古民家、味のある、木造の下宿屋などあり、なかなか良い。また和菓子老舗、古本屋なども多く楽しい。

１０月２６日（水）　秋寒　晴

先晩は、素庵の関係する韓国居酒屋「O」の開店祝いで、午後６時ころより飲み始め、午前様となり我が家に帰還。そのため一日二日酔いに悩まされた。ただボウとして、本も読む気力もパソコンにさわる意欲もうせてしまって、もう酒はやめようと固く決意した。しかし今日になると、酒はほどほどにすべきだと思っていることが変わってしまっている。まさに素庵のだらしなさがもろに出てしまっている。こんな時は「相田みつお」の言葉ではないが「人間だもの」と、うそぶいていよう。

さて、図書館から借りてきた資料「日本書紀私記」「釈日本紀」「日本逸史」が、今手元にある。吉川弘文館発行、平成１１年、新訂増補「国史大系」に前記三書が一緒に記載されている。素庵の調べによると、これらの書について、現代語訳といったような解釈本はないようだ。したがって全文、漢字の原書だけが、この無学な素庵の前に所在なげに転がっている有様である。吉川弘文館に恥ずかし気もなく、電話して、「もっと易しい本はないか」などと聞いてみようと思っている。吾妻鏡などは良い現代語訳を出してくれている出版社だから、庶民の味方であるはずだが・・・。

さて、この本の他に、先日のニュース・エブリイの出場のお礼に頂いた、日テレマーク入り図書カード５００円４枚で新刊小説「下町ロケット」池井戸順（いけいど・じゅん）著とアマゾンで買った、例の「ベッド探偵」元祖・ジョセフィン・テイの「時の娘」が目の前に転がっている。

下町ロケットは、その題名からすると、下町の工場の親父が出てきて、おんぼろい人工衛星でも飛ばす話かと思っていたが、イメージとおもいきり違う話しである。しかしながら、非常にドラマチックな内容で面白い。素庵は小説のストーリーを話す奴が大嫌いで、今はなき淀川長治のテレビコメントなどは声を消して見ていた者で

あるから、ここでは、ストーリーを書くことは、控える。

１０月２７日（木）

「日本書紀私記」「釈日本紀」の注釈本・現代語訳は存在しないというのが、目下の素庵の結論である。厚かましいことに吉川弘文館に電話して聞いた話でもある。したがって、目の前には漢文の壁がそそり立っている。（汗）。魏志、後漢書なども文庫本になっているのは、倭国に関連した記事を取り出した、いわゆる倭人伝と読んでいるダイジェスト版のみに限られている。言うまでもないことだが、古代の日本をめぐる状況は、倭人伝だけでは決して理解はできない。

すでに、出版社の未来は陰り始めているが、ここであえて言わして貰えば、従来の出版界がひどく安易な土俵で勝負してきたということである。（ネット上にも、これらの現代語訳は存在しないように思える。どなたか取り組む人はいないだろうか）

こうした状況が、現在の歴史トンデモ本の跋扈（ばっこ）を許していると言えよう。・・・さて、こうぶつぶつ言っている間にも、図書館から「東方見聞録」二冊用意できたと、メールが入った。土日は、那須にモミジ狩りに（風雅なことばだねえ）出かけるから熟読はむりだろうが、楽しみである。「時の娘」「下町ロケット」は、ただ今読書中。素庵は熱烈ながらいい加減なＳＦ好きであるから、いずれ「リングワールド」「宇宙のランデブー」「夏の扉」などなどについてご託を並べるつもり。

１０月３０日（日）

東方見聞録を図書館から借り、隅々まで目を通すが、「ジンギスカンが逃れて樹のほこらに隠れていると敵将が助けた」というエピソードを、見つける事はできなかった。それで、この件に関しては、しばし判断中止。もう少し東方見聞録を読んでみようと思う。

さて、土日にかけて素庵は那須方面にモミジ狩り挙行。土曜は、比較的那須に近い大内宿（おおうちじゅく）目指して車で進むが山中を通る道は三月の震災のために、至る所道が崩れており、いまだ通行不能という状態である。このため、大迂回で進み、大内宿に着いたのは昼になってしまった。（けれども細い迂回の山道は紅葉が見事であった）

大内宿は江戸時代、会津若松と日光を繋ぐ会津西街道の宿場として設けられ、発展した町だ。会津藩・新発田藩・村上藩・米沢藩の参勤交代や米の運送に多く用いられたと言うことだ。明治に至って、参勤交代もなされなくなり、寂れたが、寂れたことで、昔のままの宿場町が新築もされず昭和まで、相当残されていた。昭和５６年（１９８１年）、木曽の妻籠宿、奈良井宿に続いて、全国第三番目に重要伝統的建造物群保存地区として設定されたのだ。

現在は、街道の両側におよそ７０軒の藁葺きなどの商店が軒を連ねていて、往復７００？の往還を楽しめる。街道はアスファルト舗装されておらず、道の両側には清らかな二尺（６０？）ほどの清らかな用水が流れている。そこでラムネやビールやトマトやリンゴが冷やされていた。素庵一行（素庵、愚妻、愚息）は街道の外れの小山から、美しい町並みを眺めた後、名物、一本ネギを箸にして頂くおいしいネギそばと、そばがき、あんこもち、地酒などに満足。宿場の周りの山々は紅葉し、休耕田のススキは陽を受けて白く波をうっておったぞ。愚息は素庵から略奪したキャノンキッス一眼デジカメで風景を撮りまくっておった。素庵は地酒「特別純米酒大内宿」四合瓶二本・計三千円也を土産とす。福島県内のここは震災で観光

客がまばらと聞いていたが、この日は大勢の人で賑わっていて、元気で良かった良かった。宿泊は那須のホテル・ラフォーレで、健保組合の補助があって、一泊二食八千円と格安、設備豪華、食事良し、湯は硫黄泉（震災以後泉質が濃くなったという！）良しで満足。ただし翌日の予定、今年四月より公開されたご用邸の一部、「平成の森」行きは駐車場が七十台のため、待つことになり、帰路を急ぐ、我々は、予定を変更、那須茶臼岳見物に切り替えたのであった。

１０月３１日（月）

「下町ロケット」読了。今、企業がかかえる問題が、面白さの中ににじみ出している小説であると思った。作者　池井戸潤（いけいど・じゅん）氏は１９６３年岐阜県生まれ。慶応義塾大学卒業後、三菱銀行入行、９５年退職。９８年「果つる底なき」で第４４回江戸川乱歩賞を受賞し小説家デビュー。１０年「鉄の骨」で吉川英治文学新人賞を受賞。他の著書に大藪春彦賞候補になった、「ＢＴ’６３」「最終退行」、直木賞候補の「空飛ぶタイヤ」、山本周五郎賞候補の「俺たち花のバブル組」など。「下町ロケット」で第１４５回直木賞受賞した。

このように注目作を多作している氏は今後も期待できる大型作家と言うべきだろう。素庵の楽しみが一つ増えたのである。

先日なくなった、アップル社のスティーブ・ジョブズ氏の伝記が発売されたが、これなどは「下町ロケット」のドキュメント版ともいうべき面白さが予感できて、今、読みたい一冊である。

アマゾンより「元朝秘史・チンギスハン実録」届く。春野一人の日本書紀の謎に関する小説は「ベッド・デティクティブ」の形を取ろうかななどとうっすら思っている今日この頃である。夜は恒例の会社の月末打ち上げ。たまたま社長の前の席ということで、社長と話しこむ。社長は大学時代はフランス語科と言うこと、素庵も、もとはちゃちな会社の社長と言うことで、経営の話、小説の話と、楽しい一時を過ごした。

読了の「下町ロケット」は、社長に進呈しようか。ここは浜松町駅もよりの魚料理の店（店名忘れました）であるが料理は「豚シャブ・野菜」で、なかなか捨てがたい味でありました。この例会は2時間飲み放題、費用会社もちの、いやしい貧乏素庵、狂喜の内容なのであります。素庵はビールの後、冷酒一本で深酒なしの素庵にはめずらしい良い酒でありました。

11月2日（水）

昨日は、「小説家になろう」さんの、ネットの具合が悪かったようで、アクセスできない事をいいわけに、日記を書かずじまいにしてしまった。さて、手に入れた「元朝秘史・チンギスハン実録」（中公新書・岩村忍著・１９６３年初版）に、例の梶原景時（かじわら・かげとき）（相模の国の梶原郷の領主）が敵でありながら洞窟に隠れる源頼朝をかばった話と良く似た話を発見した。

テムジン（のちの成吉思汗）は敵から逃れて、林の中に逃げ込んだ。（この頃はテムジンがようやく頭角を現してきた頃であった）九日目に食物もつきて森から出たところを待ちかまえていた敵のタイチウト族に捕らえられてしまった。タイチウト族を率いているタルフダイ・キリルトクはテムジンを捕らえて帰ると、部落から部落へと引き回した。時は夏の初めの旧暦四月十六日の暖かい日であったから、タイチウト族のものはオノン河の岸で宴を催し、暗くなると、みな帰って行ってしまった。テムジンは酒宴の間、子供の番人に見張られていたが、族の者達が帰った所を見計らって手枷（てかせ）を子供の手からもぎ取って、子供の頭を一打ちし再び林に逃げ込んでしまった。テムジンは見つけられる恐れがあるので、河の水たまりに上向きに横たわり手枷を水に流れるままにして、顔だけを水面に出していた。子供が「逃げたぞ」と叫んだので、タイチウト達は満月の明るい光の下の、林の中を探し回った。スルドス氏のソルハン・シラはテムジンが隠れているのを発見したが、「おまえが優れた者なのでタイチウト達は妬んでいるのだ。そのまま隠れているが良い。私は知らせたりはせぬ」と告げて立ち去った。タイチウト達は一時はあきらめて引き返していったが、また引き返してきて捜そうと言い出したので、ソルハン・シラは「真昼でも逃げられてしまったのに、今、この暗くなった夜に見つかるはずがない。まだ捜してない

所を捜して今日は打ち切りにし、明日また捜そう」と言った。

あきれるくらい、話しの細部が「吾妻鏡」に良く似た話である。まさか義経がジンギスカンになったと、それはいくら何でも、すごすぎる話しであるが、ジンギスカンが、部族をまとめていった様子も、頼朝の立ち上げと似ていて、背筋がゾクゾクするのである。又、日本ではジンギスカンと呼んでいるが、原典では「チンギス・ハガン」であると中公新書版の著者である岩村氏は後書きに書いておられる。（氏は義経＝ジンギスカン論者などでは全然なく。原典について言及されているだけなのだ）チンギス判官？これは素庵の考えすぎであろうか。判官とは義経の代名詞である。ちなみに「ハガン」は元国においては王につく敬称なのである。・・・どうやら「トンデモ素庵」と言われそうだからここらへんで退散しよう。今日の晩ご飯はブリの照り焼き。切り干し煮物。ゴボウのきんぴら。茄漬け物。御飯軽く二膳。酒抜き。一昨日は会社の打ち上げ。昨晩は「寿司常（すしつね）」（東京を中心とした中級寿司チエーン店）で酒と、飲み過ぎだ。昼はナチュラルローソンの店内キッチンで作った、メンチバーガーに冷茶缶であった。

１１月４日（金）　晴

昨日は、文化の日で休日。早朝より「ベッド・デテクティブ・ストーリー」（しかし、この言葉は、和製英語だそうな。アームチェアー・デテクティブが正式な呼び名であるという）の元祖と言われるジョセフィン・テイの「時の娘」を読んでいた。英国王リチャード三世は、王位に即くために、兄の幼い王子を塔に閉じこめて殺した極悪非道な王として知られているが、彼の肖像画を見た、入院中のグラント警部は
その肖像画が示している優しさに疑問を感じて、考証をはじめるという話である。この話のパターンが、「成吉思汗の秘密」で用いられている訳なのだが、この手法は、あまり用いられてないのである（一番積極的だったのは「成吉思汗の秘密」の作者、高木彬光（たかぎあきみつ）氏だった）。素庵、この手法を用いて、数々の歴史小説連作の創作にとりかかりたいと思うこの頃である。高木氏はこのパターンで書いた小説「邪馬台国の秘密」「古代天皇の秘密」があるが、これらはアマゾンで送料込みで３００円程度で手に入るので、早速注文した。そのほか「ダ・ヴィンチ・コード」（著者タン・ブラウン。全世界で七千万部、日本で一千万部を突破した！２００６年映画化。しかし素庵思うに、これはトンデモ本の最たるものであると思うのだが未読で、はっきりしたことは言えない）

そのあと素庵、自転車で床屋（１６００円）に行き、それから要介護３の認知症の母のいるリハビリ施設にも回ってきた。午後からは夕食の買い物。出戻り男の長男の分も含めて三人分の準備である。メニューは牛ステーキ・鯛のカルパッチョ・サラダ・キムチ・サザエの壺焼である。

四日は仕事。以前肉の配達で知っている、東日本橋の肉屋兼弁当屋の遠藤商店で夕食の弁当５００円を三食求める。昼時は近所のサラリーマンが列を成す、人気店である。大盛りの御飯に五品のボリ

ュームあるおかずが三十種の中から選べるのである。素庵はメンチカツ・ハンバーグ・マーボ豆腐・キンピラそれに必ずつく白菜のお新香を選んだ。夕食時このほかにトウモロコシ醤油バター炒め、トマトサラダを添える。・・・この日も「時の娘」を読んでいる。仕事で新木場に行くが、貨物船が停泊する港にススキの群れが銀穂を光らせて良き秋の風情であった。

11月5日（土）　秋ながら暑

息子が、素庵のフィルム中型カメラの名機「ハッセルブラッド」を使うというので、使い方を教えて渡したが、結局シャッターが落ちないという事になり、素庵にも原因がわからない。「ハッセルブラッド」は、言うなればカメラのスーパーカーのようなものであるから、致し方がない。これに比べれば現在のデジカメ一眼は、まさに日本車の良さを引き継いだ、無故障の権化と言えよう。「ハッセルブラッド」を修理に持ち込めば、安くとも五万円はくだらないから貧乏素庵には手も足も出ない。ここは、「こりゃだめだ」と言って、カメラをほったらかしにするしかないのである。これに比べれば、もう一台持っている二眼中型カメラ、国産のマミヤC２００はトラブルもなく扱いやすい。しかし「ハッセルブラッド」のレンズはかのドイツ製「ッアイス」であり、取れる映像は、フイルムにしてデジタルで言えば3万画素はあると思われるので惜しい。

さて今日は、鎌倉の御成通りの老舗酒店「高崎屋」さんに頼んであった、秋田の名酒「純米吟醸新政（あらまさ）」４合瓶2千円なり1本を求めに行く。新政酒造発祥の六合酵母による酒を生酒でいただくとどんな美味であろうか、いまだ栓を切っておらず、楽しみな素庵である。ついで甲府のボジョレーとも言うべき、マスカットベリー種を用いた中央葡萄酒株式会社（グレイスワインで知られている）のセレナ赤ワインを１５００円も勧められるままに求めた。おりしも北鎌倉駅前の北鎌倉古民家ミュージアムにて童（わらべ）の愛くるしい人形で知られる粟野敦子（あわのあつこ）創作人形展５００円に入り、その可愛さ、懐かしさを堪能した。このミュージアムの庭もなかなかの風情ある良い庭である。その後、小町通りの甘味どころ「納言」と「天むす屋」両店に立ち寄り満腹。どちらも名店なり。

さて、ベッドディテクトを検索するうち、エドガー・アラン・ポーの「モルグ街の殺人」が史上初のミステリーと知り未読なのでア

マゾンに注文を入れる。又、コナン・ドイルのシャーロック・ホームズ、シリーズの一つ「まだらの紐」も評判良いというので注文入れる。ミステリーは歴史ミステリーの父親みたいな存在と思うからである。今日「ダビンチコード」角川文庫・上・中・下、三冊入手。

１１月６日（日）　曇りたまに微雨

昨夜、テレビ「アドマチック天国」は、板橋の「ハッピィロード大山商店街」を取り上げていた。昨日放送された内容に引きずられて「大山詣（おおやまもうで）」は、ちょっと恥ずかしいが、なに素庵もともとミーハーであるから臆する所なく、参上した。この大山の地名は、この場所がかっては、大山詣をする大山街道が通っていたからであるという。近所の埼玉に抜ける国道１７号（中山道）の志村の坂道には未だに古い石の道しるべが立っていて、「ここより大山街道」と刻まれているという。なんでここが大山街道？と疑問の素庵であったが、調べてみると、「大山街道」は、かっての「鎌倉街道」と同じで、丹沢の大山に通じる多くの道を「大山街道」と呼んだとある。これで疑問氷解。数多くの「大山街道」のひとつなのである。もとより、大山商店街を通る川越街道が「大山街道」ではなく、その道筋は今は失われて不明である。

大山商店街はおよそ５６０？の綺麗なアーケイドに覆われた商店街であり。アーケイドのある商店街としては全国三番目の長さを誇る商店街だという。（一位は目黒区の武蔵小山商店街８００？である。）おりしも大山商店街が共同で開いている「全国ふる里ふれあいショップ取れたて村」では東北の最上町の皆さんが、その場で新蕎麦を打って試食会を開いていた。ただより好きなものがない素庵はさっそくそれを試食。新蕎麦の香り高い、腰の強いうまい蕎麦でありました。ここでは店頭で売っていた煮込み玉コンニャクを買った。商店街の評判の魚屋には客が群がっていたが、１０きれほどの中トロ６００円、イカの塩辛を買う。良い品が安い商店街であると思った。

さて、古事記、太安万侶に関する小説、８００字ほど書く。しかし、まだネットには流さない。少し書きためてから表示しようと思

っている。タイトルは決まらない。「ベッド・デテクティブ」小説である。主人公は「酔いどれ詩人」田沼遼（たぬま・りょう）である。

１１月７日（月）　晴のち夜半、雨

ベッド・ディテクティブ、ミステリー小説の元祖「時の娘」読み終わる。この小説で考証の対象にされているリチャード三世は、シェイクスピアによって「リチャード三世の悲劇」として１５９１年初演されている。そこで描かれているリチャード三世は残酷で、権勢欲にくられた、背中の曲がった奇怪な人物である。欧米人には、あらかじめリチャード三世には、このようなイメージがある。忠臣蔵はかの大佛次郎（素庵の尊敬する人である・猛烈な歴史書の読書家であることは、司馬遼太郎の先駆をなし、幕末の歴史、フランス史に詳しく《これはフランス語原書読み》、歴史への知識は膨大なものであった。丸善書店への借金を支払うために、しかたなく鞍馬天狗を書いたので、氏の本領は歴史家であった！）の、綿密な考証によって成立した原作をもとに、１９６４年ＮＨＫ大河ドラマ「忠臣蔵」が放映されて以来、今にいたるまで、あの手この手で作り替えられてきた人気作品だが、ここの登場する悪役、吉良上野介（きらこうずけ）が、実はとても良い人で、濡れ衣で殺されたといったら、日本人は誰でも「ええ？」と言うに違いない。この小説では、リチャード三世に対する伝統的イメージが崩されていくわけで、欧米人には、格別面白い作品ではなかろうか。このような作品がありながらリチャード三世は、いまだ重要な演目であるようだから、歴史通念には根強いものがある。

江戸川乱歩は、「時の娘」について、探偵小説評論家アンソニー・バウチャーが１９５２年度の最優秀作としているのに同感している。高木彬光は、これに刺激を得て「成吉思汗の秘密」を書いたわけだが、この作品は、正に傑作！ベッド・ディテクティブという小説形式が、いかに歴史文学に適しているかを示したといえよう。これは発見した素庵は、宝の山を掘り当てたような気持がするのである。この方式によれば紫式部も藤原氏も何でも書けそうである。

高木彬光作「邪馬台国の秘密」「古代天皇の秘密」アマゾンより届く。ともに送料込み２５１円。ともにベッド・ディテクティブである。「古代天皇の秘密」は、春野君が舌なめずりしている。なにせ「カルカヤの歌」の筆者だからである。春野一人はもちろん素庵のペンネームである。

１１月８日（火）　晴

朝方は小寒いが、日中は平年より暑い日が続いている。入手した「ダ・ヴィンチ・コード」は文庫本３００ページほど上・中・下・三分冊である。面白くて、すでに上巻を読み切りそうである。「ダ・ヴィンチ・コード」を読んでいるのは面白さもあるが、これも一種の歴史ミステリーであるからだ。巻頭に以下の様に、挑戦的に書かれているのはすごい。

事実　　シオン修道会は、１０９９年に設立されたヨーロッパの秘密結社であり、実在する組織である。１９７５年、パリの国立図書館が「秘密文書」として知られる史料を発見し、シオン修道会の会員多数の名が明らかになった。そこにはニュートン・ボッティチェルリ・ユゴー・ダヴィンチの名が含まれている・・・。

ヴァチカンに認可された属人区（素庵注・地域を主体とした教会制度と異なって、職業などによって、地域を越えた種々のカトリックの分組織、代表者をもつ）であるオプス・デイは、きわめて敬虔なカトリックの一派だが、洗脳や強制的勧誘、そして「肉の苦行」と呼ばれる危険な修業を実施していると報道され、昨今では論争を巻き起こしている。オプス・デイは、ニューヨーク市のレキシントン・アヴェニュー２４３番地に、４７００万ドルをかけて本部ビルを完成させたばかりである。

この小説における芸術作品、建築物、文書、秘密儀式に関する記述は、すべて事実に基づいている。

なにか、カトリックに、ざわざわした動きがあるように感じられる一文である。

１１月１１日（金）　曇り

今日は記念すべき日付である。１１・１１・１１である。つまり２０１１年１１月１１日である。これを期して、電鉄会社は記念切符を出し、恋人であった人々が結婚届けをだすという。結婚記念日を忘れて文句を言われる素庵などは、こんな日に結婚届けを出すべきであったのだ。さて、本日は国会で野田首相がＴＰＰ参加問題で野党から猛烈な攻撃にあっていた。そして午後八時過ぎ首相官邸において、参加についての交渉に入る事を明らかにした。素庵なども、この件に関しては、前に進めるべきだろうと思っている。無関税になれば農業・牧畜業は海外の安い農作物との競争に晒される事は眼に見えている。かといって工業製品輸出に高関税がかかる現状のままでは、国内の工場は、海外に流出する一方となるだろう。ましてや日本の人件費の高さは、諸国にくらべるとひどく高水準であるから、なおさらである。農業も牧畜業も工業も漁業も観光業も興業もサービス業も、産業は元気であって欲しいものだが、やはり後退ではなく前に進む試練をうけなければ、良い方向には進まないのではないだろうかと思う。そうでなければ、いまの日本のひどい閉塞状況は打ち破れないのではないだろうか。

さて、古事記執筆者、太安万侶（おおのやすまろ）についての創作、いまだ手つかずである。というのも、ダ・ヴィンチ・コードの読書に入り浸っているからである。この後に、高木氏の「邪馬台国の秘密」「古代天皇の秘密」も読まねばならない。その道の先に、素庵の作品が生まれてくると言う予感があるのである。さて夕食、昨晩はおでん、今日はかきフライ・キャベツ千切り・缶詰のアスパラガス・もやし味噌汁・イカの煮付け、白菜ゆず漬け物、純米酒一合である。

11月12日（土）

「ダ・ビンチ・コード」読了。これから読もうと言う人は以下の事を読まないほうが良いと素庵は警告する。なぜなら素庵は明らかにストリーに言及しているからである。（笑い）主人公が悪人の追跡を、才知ですり抜けて、与えられた地図（ヒント）をもとに辿り着いた場所で得たあらたに得た地図（ヒント）を守りながら、遂に宝にいたる、宝さがし探偵小説といったイメージだ。しかし得た宝というのが一円玉ぎっしりの宝箱だったと言うような、「なんだかなー」という初歩的ミスを犯している小説であった。この本が、かくも読まれたのは、内容が漫画的であるからであろうか。これは売れたからといって良い作品とは言えない例である。いうなればミステリーやＳＦは謎で読者を引っ張って行く一面がある。この作品では謎解明が全く不十分である。考えてみれば、作者のダン・ブラウン氏は、通常の作家なら、当然所持しているはずの結論の明確なイメージを用意していなかったように考察できるのである。素庵は、この作品に関して、こう言いたい「時の娘」を身よ！「成吉思汗の秘密」を見よ！と。さらに言う、春野君の「鎌倉幕府第三代将軍実朝の青春」を見よ！と（これは手前味噌）。

さて、早朝から朝までに「ダ・ヴィンチ・コード」を読み終え、昨日の御飯が残っているので、御飯・生卵・ハム・昨晩のもやし味噌汁の朝ご飯とする。山の神は、そうこうするうちお目覚め。今日は、三十代の出戻り息子、大田区協賛のオオタ・フェスティバルのスケボーコーナーのお手伝いということで、持って行く５００ミリリットルの魔法瓶に充たすべく、朝の分も含めてホットコヒー１リットルも作らされる。（我が家はコーヒーメーカーなどはない。普通にドリップで作るのである）

大田区平和島周辺が会場であり、素庵夫妻も、４０分ほどかけて

自転車で遊びに行く。（寝たきりにはなりたくない！健康のためである）、地元の商店街、団体などが心をこめて出店していて、商業化した川向こうのわが市の工夫のない市民まつりには見られない魅力である。早速眼に入ったのが、原発の風評被害に遭っておられる福島の農業の皆さんの売店。愚庵・愚妻、安いものには眼がない、いずれも市価の半値！ジャガイモ・ネギ・玉コンニャク・きゅうり・トマト・リンゴ・梨・インゲン・ほうれん草・会津まんじゅう・山ぶどうジャム・カブ・などなどたくさん買い込んだのである。およそ1キロにわたる会場を、荷物を持って歩くのが、身体に良かった！（トホホ）。さて明日もやっているので近在の方にはおすすめであります。ぜひ福島の野菜を買ってくださいませ。　Ｐ・Ｓ　買い込んだ野菜のうち、カブは肉あんかけにしたが絶品であった。

１１月１３日（日）　快晴

昨日は、太田フェスタ（大田区の区民祭）で、書き残した事がある。福島の物産コーナーで、しこたま野菜などを買い込んでから多量の野菜をぶら下げて、移動し、子供達のチアダンスを見た。子供はこのように活発に身体を動かすべきだと、素庵一人で納得している。昼に近い。次の会場では、つきたての餅で作った、あんころ餅（アンコも自家製）とおろし餅各２００円を、わが山の神のために買い求める。素庵は焼き鳥４本４００円と中サイズ生ビール３００円、きゅうり一本漬け２００円にて、最上のセルフ居酒屋を開店したのであった。さらに生ビールをお代わりした後、場所を移動、百人ほどが参加しているフリマを冷やかしたあと、さらに次の会場に、韓国の人々が開いている売店でチゲ３００円（非常にうまい！）釜揚げ、さぬきうどん３００円（本格的であり、これもうまい。味付け程度に少々の濃いつゆがかかっている）さて、最後はボートレース場の方に移動する。ここでは、大森の海苔問屋が即売会を開いている。イベントに「海苔産地品定め」というのが行われており、野次馬のわが弥次喜多夫婦はこれにチャレンジする。三河海苔と有明海苔と江戸前海苔（東京湾・千葉・木更津＆富津産）を判別するのである。人にはとりえがあるものだ、大食だけが芸だと思っていた山の神が、それを言い当ててしまった。素庵は江戸前が判別できたのみで、三河産と有明産を間違えてしまった。東京湾産は、風味がすぐれており、貧乏素庵家ながら、日頃、一点豪華主義で愛用しているから、（浅草仲見世通り近くに、浅草海苔の名店、いせ勘あり。台東区浅草１－３６－２享保二年１７１７年開業の老舗で、浅草海苔＝東京湾の海苔を鋭意販売している。生意気にも素庵は、雨漏り家に住みながら、たまに買い求めるのである）味が解ったのであった。ここで江戸前海苔全形１０枚４００円（通常５６０円）を２丈買い求めた。

さて、「ダ・ヴィンチ・コード」読み終えたので、今度は高木彬光作「古代天皇の秘密」を読み始めた。「成吉思汗の秘密」で有名な、神津恭介シリーズの一つである。高木氏の歴史に対する高度な思考力が、古代にどのような照明を与えているか、期待大であり、楽しみは非常に大きい。

11月14日（月）　曇り

ついに、「ベッド・デティクティブ小説」をネットに載せ始めた。本当はもう少し時間が欲しいのだが、何とかなるかと見切り発車である。

昨日は、「ちい散歩・北千住」編をたどって歩いた。水戸街道は言わずと知れた国道6号であるが、ここらあたりでは、旧道が残っていて、沿道には古い風情のある人家が残されている。横山家住宅・名倉医院は見応えのある建築物である。荒川に近い場所に美味しい「かどやの槍かけ団子」があり（1本90円・あんこ・醤油タレの2種類）・「ちい散歩」にはないが、ケーキのアウトレットで評判のみせもある。上野の方からおよそ5キロ隅田川の千住大橋を渡ったところは、かの松尾芭蕉が、奥の細道を行くに際して門人・知人と別れた有名な場所である。ちょっと「奥の細道」の千住の部分を書き移してみよう。

二月二十七日夜明け方の空はおぼろに霞み、有明の月はもう光があわくなっており、富士の峰が遠く幽（かす）かにうかがえる。上野・谷中の方を見ると木々の梢が茂っている。あの花の名所を再び見れるようになるのは、いつのことになるであろうかと心細い気持がする。親しい人々は宵のうちから集まって、一緒に舟に乗って隅田川を航行し見送ってくれる。千住というところで舟からあがると、これから三千里もの道のりをがあるかと胸がいっぱいになるのだった。この世は幻のようにはかないものであるから、未練はないさと思っていたが、いざ別れとなるとさすがに涙が溢れてくる。

行く春や鳥鳴き　魚の目に泪（なみだ）

これを、この旅で読む第一句とした。見送りの人々が別れを惜し

んでついて来るので、なかなか足が進まない。ようやく別れて、しばらく来て振り返ると、みんな道中に立ち並んでいる。私の後ろ姿が見える間は見送ってくれるつもりなのであろう。

誠に心にせまるシーンではなかろうか。

１１月１５日（火）

我が家は３ＬＤＫで長男は出戻りで同居で、次男家族はとなりの３ＬＤＫ住んで、間の壁を抜いて二世帯家族風になっている。合わせて大人５人子供３人のめずらしい大家族である。孫３人は連絡通路から、しばしば進入して、こちらのリビングのソファーでゲームをし、かってにジュースを冷蔵庫から飲んで暴れ時には素庵に蹴りを入れたりの悪行の限りをつくすのである。

さて、次男家族は土日にかけて千葉は勝浦に一泊旅行をした。泊まりの勝浦簡保の宿は、オーシャンビューで、しかも特定の部屋には露天風呂がついてもいる。（その部屋の利用料は５千円増しだと聞いた）

おりしも、長男はオオタフェスタのスケボーコーナーの手伝い「アキ」さんとして土曜の夜は帰りが遅いので、つまりは愚庵と愚妻二人が、荒野のような我が家の片隅で「シズカダネー」とつぶやいているのみであった。次男一家は土曜日は「鴨川シーワールド」をチケットで安く利用し、日曜日「日本三大朝市」として有名な「勝浦朝市」に行った。次男は重さ８キロほど、魚長４０?ほどのカツオ（１５００円）を、土産として持ち帰ってきた。今日の夜、素庵は素庵個人用の出刃包丁に砥石をあて、刃を研いで、やおらカツオに戦闘開始。朝市で内臓も抜いてくれるが、この土産は内臓を抜いていないもの、それだけ悪戦苦闘である。頭を落とし内臓を抜き、骨をさけ、三枚におろし、身をガスコンロであぶり、タタキとした。これでやっとスーパーに売っている「カツオのタタキ」のサクとなった。これを美しく切るには、ここからは刺身包丁を使う。完成！もう一つの土産である、大サザエの壺焼き（一コ２５０円とか）と一緒に食卓に出す。素庵はこれを魚に日本酒を大満足で飲んだ。

さて、例の「ベッド・ディテクティブ」目下、鋭意研究中である。

１１月１６日（水）

この日記は１６日の早朝に書いている。だから本当は１５日の日記なのだが、素庵は午後１０時には寝て午前４時ごろに起きるといった毎日をくり返しているので、日記を夜に書けないで、翌日の朝に書いているので日記の日付が変になってしまう。まあ、書かないよりは良いかと言うことで書いている。こんな駄文でも後日、何かの役にはたつであろうか。

昨日、素庵が食べた物を書いてみる。朝食は「ベーカリー・ピーターパン（大田区・京急六郷土手駅にショップあり）」の、フランスパンの生地で作られた食パンの八枚切りの一枚をトーストした物に、土曜日福島三春町の皆さんから買った「山葡萄ジャム」（美味！中瓶入り、６８０円）を塗ってたべる。それに昨晩の大根・ほうれん草の味噌汁と入れ立てのコーヒーを添えた。昼は、出勤途中に寄る、マックのセット２５０円也のホットドッグ＆ホットティーのホットドッグを残したものに、その後買ったセブンイレブンでのお気に入りサラダスティック（棒状にカットした人参・きゅうり・大根とキャベツ乱切りが、大コップ形のプラの入れ物に入っている。味噌とマヨネーズをミックスしたと思われるドレッシングがついている。２１０円）をつけた。夜は近所のイオンのミニスーパー「マイバスケット」においてあるオリジナル、お買い得プライス商品「甘口カレールー」で作ったカレーに、同店においてある「生餃子」９９円也を添える。お新香３割引品１パック。キリンのどごし生発泡酒３５０ｍｌ缶１本飲む。

素庵は日記に五行詩に創作に追われていながら、資料も読まねばならないから、バスで読む。電車で読む、マックで読む、昼休みに読むで本とデスマッチを常にしている。たいした才能があるわけではないので、寸暇を惜しんで読む・読む・読むの毎日をくり返して

いる。これが楽しいのであるから、これを良しとしよう。

１１月１６日（水）　関東北部に降雪。終日寒。

１６日の記日がダブルなのだが、朝方、前の日の日記を書く、あとの祭りばかりのグウタラ素庵は、ここら辺で、混乱をさけるため、１７日の朝書いたことは１６日とすることにした。それで今日の日付は２０１１年１１月１６日である。くどいようだが、この記は１１月１７日午前４時２０分に書いているのである。それで、ここに言う「今日」は昨日の事なのである。この言葉使いは、鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」の、語り口になんだか似ていて面白い。春野君の小説、「怒濤の歌。鎌倉第三代将軍実朝」執筆の時には吾妻鏡の原書と現代語訳を交互に取り出して、内容にあたったものである。そこには・・・今日、大倉御所において・・・といったような表現が良く使われているのである。この書においても、この「今日」は、ほんとうの今日ではありはしない。何年もあとに、書かれているのである。

さて、今日、東京は突然寒くなった。朝方、市民公園の向こうの一分に一台は来る、まことに便利な市バス（この手前の交差点から各所からのバス路線が合流するので、こうした異常なことになっているので、生意気にも素庵は混んでいるバスはパスして座れるバスを選ぶのである。この時ばかりはこうした地の利を選んでくれた、今は亡き父に感謝するのである）の停留所まで五分強の歩行にも、厚手のジャケットを着なければ寒い陽気となった。何でも日光・草津などにも雪が積もったそうである。

高木彬光作「古代天皇の秘密」は、残念ながら、日本歴史学者の悪しき非論理的、似た地名・似た人名で推測を重ねすぎて、史実と違う方向に行ってしまって、最後はなんだか、素庵の愚鈍な頭にはわけの解らないものに成ってしまっているという印象が深い。やは

り日本古代は、かの賢学、野にあって花を咲かせた「古田武彦」氏にはかなわないのである。古田氏にも若干は、こうした独断はあるが、独断する場合、大変慎重である。高木氏は「成吉思汗の秘密」で、冴えを見せていた推論が、ここでは生きていないように思える。「成吉思汗の秘密」ほど、調査が行き渡っていない印象である。高木氏は青森の出身で、若いときから「義経伝説」に親しまれて、関連の読書も相当なものであったと、自ら書かれている。この、知らずの内の調査が、「成吉思汗の秘密」の創作にあたり、下支えになって、名作を作り出した要因となったようである。氏の「古代天皇の秘密」そうした背景がないので、物足りないものとなってしまっている。

朝食は昨日の残りのカレーに醤油をいれ、「和風カレー」となして、茶碗御飯にかけたものである。飲み物は冷茶・ホットコーヒーである。コーヒーはこのところ、カリタの電動豆ひき機をつかわず、ひいてある安豆を使っている。昼はコンビニのカップ蕎麦（１２８円）と竹の子総菜パック（１０５円）で質素。夜は、ネギを軽く炒めた後、牛肉をいれて焼き、醤油と砂糖で調味した中に、豆腐のみをいれた、ネギ・牛肉すき焼きといったものと、鯖の干もの焼に、酒・御飯で実にうまかった。

１１月１７日（木）　晴

ボジョレヌボー解禁日である。もとより素庵、ワインのことなどは詳しくはないが、どちらの酒が好きかというのは、個人の好みの問題なので、対処できるのである。ここで、おろかな素庵の自慢話であるが、以前仕事で出入りしていた、私立女子校の行事の打ち上げの折、「私は、良い酒かどうかは余り良く解らないが、その日本酒が純米酒であるか、醸造用アルコールを混ぜたものであるかどうかなら、解る」と、用務職場の好々爺の長に、うっかり豪語したものだから「それなら、品定めをやってみろ」といわれてしまった。グラスに少しずつ入れた日本酒が三つ、用意された、このなかの一つが純米酒であるという。純米酒も醸造アルコール入りの酒も安酒ではない。飲み比べた素庵は、純米酒を言い当てた。メデタシ、素庵は恥をかかずに済んだのであった。こういうと、素庵はよっぽど酒飲みと思うに違いないが、そうではない。「実朝」を書いていた頃、鎌倉に足繁く通っていたのだが、その鎌倉は御成通りに高崎屋という老舗の酒屋さんがあって、折々に四合瓶入りの純米酒を買っただけの話なのだ。素庵はそれを夕食時に一合ほど飲むだけの人である。さて今日は、ボジョレヌボーを二本買い込んだ。一本は、高級スーパーで知られる「成城石井」のオリジナル２４００円の品、もう一本は近頃都内に多店舗化している、イオングループのミニスーパー・マイバスケットの８８０円のオリジナルなんとプラボトル入りの品である。

晩ご飯は自家製太巻きである。材料は福島の農家から直送された新米とこちらで調達した山ごぼう（嘆かわしい近所の大型スーパーではあまり売っていない）・自家製卵焼き・赤でんぶ・きゅうり・甘炊き椎茸・江戸前海苔（木更津産）などである（うまい）。これを食していると、二種のボジョレを、山の神がキッチンでグラスにそそいで運んでくる。したがって銘柄は解らない。エントリーは出

もどり息子・素庵・次男である。次男はまだ仕事から帰らない。色合いは、良く似ている。味も良く似ている。熟成していないフルーティな味である。素庵は、普通の赤ワインのような濃い味のものを、成城石井のものと判じた。長男も右にならえである。ハズレ、あっさりした味のものが成城石井のものであると、山の神の笑いものになった。おまけに「来年からは安いものでいいね」と曰われる始末である。帰ってきた次男が、のちに部屋にやって来て、「のみくちがあっさりした方が高いものなんだね。俺も間違えた」と言うのであった。

11月18日（金）

江東区の元木場を埋め立てて作った大きな木場公園で山茶花がクリスマスツリーのようである。朝は昨日の晩ご飯の残りである太巻きと、冷茶・コーヒーである。朝食の前には日記をかいている。だいたい一時間ほど、それにかかる。素庵、だいぶ前に、永井荷風の膨大な日記「断腸亭日乗」を手に入れている。未だ一部しか読んでいないが、大変興味がある。少し読んだだけでも荷風の日記からは失われた江戸の情緒が伝わってくるのである。荷風の「墨東奇譚」「梅雨のあとさき」は読んだが、その他数多くの小説は、いまだ読んでいないが、読んでいないことが財産に思えるような氏の小説である。浅草などを歩くと、多くの店に「荷風先生」の来店を示す、記事などが張ってあることが多い。それを発見するのも楽しみである。

仕事、数日楽をしたので今日は忙しい。昼は上野の下谷のコンビニで買ったおにぎり鮭と昆布いり2コにペット入り温茶である。夜はカツ煮（カツ丼の上野部分を皿に盛ったものである）・御飯・きゅうりとブロッコリーのサウザンアイランドドレッシングのサラダ。イワシのつみれ汁・３５０ｍｌ発泡酒一缶である。

太安万侶の話、少し書く。古事記の序は、この話を書くにあたり、どうしてもしっかり書いておきたい。資料としているものは岩波文庫の「古事記」と河出文庫の「現代語訳　古事記」（福永武彦訳・福永氏は詩人・小説家であり、堀辰雄の弟子として知られ、堀辰雄全集を編纂している。小説「廃市」は大林宣彦監督によって１９８３年映画化されている）であるが、愚鈍な素庵には、良く意味が取れない。遅々としながらも進むしかないのである。

１１月１９日（土）　雨

朝三時起床。昨晩は九時には寝てしまったから、六時間以上は寝たわけである。お気に入りのテレビ番組「和風総本家」が、日本シリーズの延長によって、放送時間が遅れてしまったので、早々に寝てしまったので、早寝早起きとなってしまったのである。日記、太安万侶書く。朝食はホットケーキを焼き、ヤマブドウジャムとハムをそえる。珈琲・紅茶付きである。朝から暖かい雨が降っている。十時までＰＣにへばりついている。今日は要介護３の母が入所している介護老人保健施設まで洗濯物をとりにいかねばならない。雨の中、片道２キロ、往復４キロを、運動のためにも歩いて移動する。９０歳のこの母にはもはや言葉は通じない。かろうじて私が息子であることが解るだけである。ほぼ全員が座っている集合室の片隅に母もちょこんと座っている。声をかけると「あら、来てたの、用事があったの」と、いつも言うようにしかものを言わない。返事をしても「座ったら」「何か食べる？」と、一方向からの返事しか帰ってこない。会話は成立しないのだ。したがって早々に施設から退散して帰路につく。今日、ここの月費用６万４千円なりを支払うが、市より介護保険の還付金が１万５０００円あるので月費用は５万円である。この費用も安いとは言えないが、普通民間老人ホームであったなら２０万円近くかかるようであるからかなり安い費用といえる。素庵の所得などたいしたものではないが、母が素庵の扶養家族のままであるのなら、このような施設でも倍は払わねばならぬはずである。母をわが家族から切り離し、わずかな年金収入の老人所帯とすることによって、この費用ですんでいるのである。施設に入るのにも、テクニックがいる。母の場合は死にそうな肺炎にかかって、入院して回復したからリハビリとして現在の施設に比較的順調に入れたワケなのである。このような認知症の老人をかかえる方には入院は施設にはいるパスポートであることを強調しておきたい。ちな

みに、ここの入所にあたり、保証金１０万円を入金している。（退所時返還される）

ネットで午後一時十分より、駅前のシネコンに「素敵な金縛り」を予約してある。「素敵な金縛り」は、人気監督の三谷幸喜脚本・監督作品。主役に「悪人」で好演の深津絵里、金縛りする武者の幽霊に西田敏行を配している。すでに公開から三週間を経ているが、三週間の興業成績は第一位であるという。内容は、ある殺人をめぐっての検察と三流弁護士と落ち武者幽霊を交えた法廷ミステリーコメディである。笑いあり・なみだホロリありの、良くできたコメディーに仕上がっている。

映画前に「ドンク」にて、ランチを買う。フランスパンに鮭・タマネギ・チーズ・マヨネーズを挟んだサンドイッチにアイスティー各二人前しめて千円以内である。映画のあと四時過ぎ、チエーン寿司店（回転寿司ではない。本マグロをさばく店で夫婦二人で飲んで食べて7千円で済む、リーズナブルな店である）に入り夕食とした。生ビール・冷酒・ハイボール各一杯飲む。したがって、読書も執筆ならずテレビ「アド街ック天国」草加編をボウと眺めるだけである。そして今日も午後九時就寝のよい子となってしまった。

１１月２０日（日）　晴

昨晩、九時過ぎに寝てしまったので、早朝三時に目覚めてしまった。例によって日記、「太安万侶」筆。

昨晩の「アド街ック」草加編に早速刺激されて、草加に行ってみることにした。草加は先日の日光街道（国道４号）の千住をさらに北上した街である。浅草から出ている東武伊勢崎線の草加駅で東口から降りる。降りて左側の交番の近くに、おせんべいを焼いているおせんさんの像がある。おせんさんの像の前を東に少し行くと綺麗な歴史散策道が完成した草加駅前一番通りが北に向かっている。十分ほど行くと、歴史民俗資料館がある。ここには江戸時代の草加宿を再現したジオラマや農家の数々の道具や映画館の映写機やＳＰレコード（かの、７８回転のぶ厚い初期のレコード盤である）の蓄音機などが懐かしい。とりわけゼンマイ式の蓄音機は素庵を狂喜させた。ここの「博物館」は、さわって体感する展示主義なようで、多くの陳列物がさわれるようになっている。蓄音機には「アカトンボ」のレコード盤が置いてあり、ゼンマイの巻ハンドルを４０回巻いて、レコードに鉄針を乗せて再生するまでをやらせてもらえるのである。おお、懐かしい美音がスピーカーから流れて来るではないか！し、しかも鉄針交換までさせてもらえた。（針は三回の再生で一回取り替えなくてはならないそうだ）うそでなく、電蓄がほしくなってしまった素庵である。素庵の好きな、かの有名詩人中原中也はシューベルトやモーツアルトをこのような装置で楽しんだに違いないからである。山荘などで、この再生装置で音楽を聴きながら、創作に打ち込めたらどんなに良いだろ！さて、この道「歴史散策路」をすすむと、やがて旧日光街道に出る。この通りには「草加せんべい」の老舗がたくさんある。意地汚い素庵ならびに鬼妻は、我が家の財政をかえりみず、あの店、この店で「草加せんべい」買いまくった。一枚ずつ（百円）かじってみると、さすがに良い醤油（各店はそれ

ぞれ違う醤油醸造元と契約しているとか）・良い生地・天日干し・炭火焼が実に良い味を作り出している。さて、この道筋には、観光客のために、お茶をだしてくれる無料休憩所もある。さらにその先には、江戸時代の日光街道を忍ばせる、松並木が1キロにも渡って続く。それに今日は赤く紅葉した周辺の桜の樹がキレイだった。春にはこの周辺の桜は景観であるそうな。松並木の最後のあたりに、東武伊勢崎線の松原団地駅があって、3キロぐらいの手頃な歩行で済むのも良かった。※コースの最後近くに草加市文化会館があって、ここでも各店の草加せんべいと、もう一つの名物である見事な革工芸品が売られていた。（今日は千円で入場できるハープ演奏会も開かれていたが、時間の都合もあり、残念ながらパスした。）

11月21日（月）　晴

「ルパン3世」の原作者・モンキーパンチは、少年の頃、トムとジェリーが好きで、作品に、その追っかけを真似ていれたと、今晩のテレビで知った。素庵、これで納得。そうか、「ダヴィンチコード」も、基本的には善玉を悪人が追いかけるという、漫画の基本的パターンなのだと思った。結局の話、ＳＦでいえば、謎ときで終わらない長編物語みたいなもので、当然物足りなさが残ってしまうのである。トムとジェリーは素庵も孫とともに、数多く見たが、時を忘れる面白さがあった。これを悪いというのではないが、大人の見るものとしては不十分と言えよう。追っかけとセクシーとスリルは大衆映画に欠かせない3要素だと聞いたことがある。「ルパン3世」には、この要素がしっかり盛り込まれていたと思う。ミステリーとＳＦは良く似ているといわれる、謎が徐々に解明される面白さ。そして意外な結末。これは歴史ミステリーも同じではないだろうか。素庵はＳＦなら相当読み込んだと言えるが、ミステリーは初心者である。したがって、ここで余り無駄口を言えない。せっかく届いたコナン・ドイルのホームズシリーズ「まだらの紐」がルビの振ってある「少年文庫」であったから、（アマゾンで1円配送料２５０円はこの本だけだったのだ。素庵がこの本を電車で開いているのを人が見たらどう思うだろうと考えると、とても愉快である）小学六年生にもなって、本を読まない男孫を本の世界に引きずり込むべく「この本を読んで感想文を書いたら三千円やる」などといって本をうっかり与えてしまったので、ミステリー修業の道は遠のいてしまった。これでは今は亡きミステリー界の有名遊歩人「植草甚一」さんに遙かに及ばないままである。

　さて、今日の食事であるが、朝はハムエッグ・トースト・コーヒー。昼はコンビニのミニドッグ２コ１９０円にストレート缶コーヒー・先日の草加せんべい一枚。夜は回鍋肉（ほいこうろう）（キャベツと豚肉の芥子

味噌いため）と鯖の塩焼き・もやし味噌汁・竹輪と野菜の煮物・酒なし・御飯・冷茶である。酒抜きだと、こんなに御飯が美味しくて、眠くならずにパソコンに向かっていられていいなあと思うのだが、酒をやめられないのは何故であろうか。

１１月２２日（火）　晴

明日は祭日なので、軽バンによる配達、非常に忙しい。今日は品川区・港区・台東区・文京区・荒川区・足立区・葛飾区・墨田区・江戸川区・江東区・中央区の順で回る（この順番は順路の都合で毎回変わる。ちなみに前の日は大田区・目黒区・世田谷区・渋谷区・新宿区・中野区・杉並区・練馬区・豊島区・板橋区・北区などの東京２３区の西半分を回るコースである。２３区を半分にわけて一日ごとに回るのである）今日は千代田区の会社から注文がないので千代田区の配達はなしである。社を十時半に出て、昼は台東区下谷のコンビニで買った、太巻き・、いなり寿司セットとペット冷茶３８０円＋１２０円でしめて５００円なりである。走りながらの素敵な昼食である。（朝食はトーストに生ハムを挟んだ物と、コーヒーであった）。やっと五時半に中央区で配達終わる。今日はわが町内の親睦会の無尽が午後七時よりあるので、築地より鈴ヶ森まで自費７００円を支払って首都高速に乗り帰りを急いだ。無尽のあと、韓国カラオケスナックを会員に勧誘するというので、役職である素庵も欠席というわけにはいかないのである。酒を飲みながらの交渉であるから、今日は創作なし。日記は翌朝に書いているのである。料理はキムチ風ナントカ料理で何を食べたか印象が残っていないが、焼酎の抹茶割りを何杯も飲んだ。

１１月２３日　（水）　晴

今日は勤労感謝の日で、素庵も感謝されてお休みである。朝方、四時より「太安万侶」筆。「素庵日記」昨日の分書く。午前中、山の神は仕事あり。朝食は昨日の残りのキムチ鍋。素庵、昨晩はキムチ漬けであったのに朝もまたキムチで、韓国の人になったみたいである。（しかし、「カルカヤの歌」の作者であるから、韓国の人より韓国の古代歴史にくわしい素庵だから、それも良いか。素庵韓国には行ったことがなく、いつかは任那（みまな）のあった韓国南岸部釜山（ふざん）のあたりを周遊したい気持がある。・・・おかげさまで、「カルカヤの歌」、いまだに毎日２０人ほどの方が読んでくれているようで、感謝しています・・・）昼、山の神、帰来。素庵、冷食の中華丼の素を鍋で暖め、レトルトを切り、御飯に乗せて昼飯とする。午後２時、二人そろって自転車にて２キロほど離れた駅前に向かう。遊びを兼ねた買い物である。日頃、素庵の履いているアシックスのシューズ、もとは白銀色であったが、今や汚い灰色に変身してしまっていたので、恐い山の神に三拝四礼して、新しいシューズを欲しがったのが功をそうして、買ってくれる事となった。したがってニューバランスの豪華絢爛、素庵にはもったいないシューズが手に入った。愚息に言わすとニューバランスの１５００という定価２万円ほどの良い品だと言うことだ。（もちろんケチな素庵のことだ、ただでは済まない。バーゲン値でショッピングセンターのポイント４千円分あり、お店の千円引き券まで使ったから実際恐妻が財布から出した金は８千円であった！）もし、素庵が駅で行き倒れになっていても、今の銀鼠のシューズではホームレスが酔っぱらって寝ているように見られかねず、誰も救急車など手配して紅で、命取りになる可能性大であるから、この出費は必要経費である。（笑い）

３歳の孫娘が、千円のクリスマス用の組み立てチョコレートの家が好きなので、クリスマス用ではなく、通常のおみやげとして買っ

た。そうして夕食の食材と午後のお茶菓子としてズンダ持ちを買い込んで四時頃帰宅した。夕食は焼サンマ・大根おろし・白子干し・ベーコンとほうれん草のバターソテイ（今、震災の影響でバターが品薄で高い！通常サイズの物が３８０円であるが、素庵家はチャーハンとトーストに小量使うので欠かせない。やはり風味はバターである）あとは、イカリングフライ・御飯・大根の味噌汁・酒なし・である。

１１月２４日（木）　晴なれど朝方寒

「成吉思汗の秘密」の作者高木彬光（たぎあきみつ）のベッドディクティブ小説としては第二作目である「邪馬台国の秘密」を読み始めた。これは、手応えとしては、三作目の「古代天皇の秘密」よりもずっと良い感じであり、この先が楽しみである。孫はコナン・ドイル「まだらの紐」を読んでいるだろうか？

その後の事を聞いていない。読ませていると言うことで、思いついたのだが、わが愚息が読もうとしている、山本一力作の「損料屋喜八郎始末控え」（２００５年、文芸春秋刊）に登場する悪徳札差（ふださし）（旗本への金貸し。膨大な利益を手にし、江戸文化の花と歌われた。歌舞伎のスーパースター、助六がこの札差である）笠倉屋は、素庵と濃厚な関係がある。この笠倉家は素庵家と親戚である。素庵の母の母（祖母）の妹が、笠倉家に嫁いでいる。この祖母の妹の夫（つまり笠倉氏）が素庵の父と母を結び合わせた。（妻の姉の、その娘を知っている家に紹介したということである）つまり、素庵は札差という家系の末に生まれた人の影響下で生まれてきたといえる。札差の運命が一つ狂えば、素庵はこの世に存在しないという幸せな歴史的事態が招来されたであろう！この笠倉屋はどうやら幕末まで札差を稼業としてきたようであるが、札差がなくなった明治に入り、浅草の木馬亭のオーナーとなったと言うことだ。幼少期の素庵は、この家に出入りしていたが、そんなことは全然知らなかった。ただ、「偉い武家であった」と、聞いただけであったのだ。

祖母の妹の連れ合いのこの人は「笠倉知栄（かさくらちえい）」と言い、かなり先駆の写真家で昭和初期に文京区団子坂に写真館を開き、フォトグラファーとして、かなり作品をのこしている。川崎市民ミュージアムには、大型写真機と３００枚のデジタル化された銀板写真がのこされている。これはネットで見ることはできない。ミュージアムに行くには南部線武蔵小杉駅よりバスが出ている。ちなみに、この美術館

は川崎フロンターレの本拠地のとなりにある。館内にしっかりしたレストランもあるから秋の一日の行楽にはおすすめである。・・・知栄さんは、木馬館主であった、その父（幼かった素庵は長い白あご髭で禿頭のこの人を見ると泣いたという。小学生になった素庵はもはや、そんな事はなくなったが・・・）に、「みっともないから勤め人になんかなるな！」と言ったという没落貴族的な人であったから、知栄さんは、昭和初期では珍しい自動車運転の教師をやったり（今でいえば飛行機の運転教師と言ったところであろう）大型外国製カメラを手に入れて（今の値段で言えば一千万円はしたと思われる）写真撮影稼業をしたりの不思議な人生を歩んでいる。

今日の食事。朝はホットドッグ。長いウインナをゆでた後、湯からあげてフライパンに油少々でウインナを炒める。ドッグ用パンはオーブントースターで軽く焼く。パンの内側に、フランス製の「マイユ種入りマスタード」を塗ったのちレタスと前記ウインナを挟み、ケチャップ少々。これにコーヒーと前の晩のアサリの味噌汁をつけた。ホットドッグはまじめにつくるもので、やはりうまい。昼は「ナチュナル・ローソン」の店内調理のピザ一切れ（２８０円）に、店のマシンによるホット珈琲ストレート（１６０円）である。夜は町内の親睦会の皆さんと食事会。近所のこじんまりした「レストラン・ガーリック」を借り切っての会である。（満席でも２０人ほどしか入れない店である）メニューは赤ワイン・生ビールにチーズ・クラッカー・生牡蠣・フィッシュフライ・サラダ・トマトスープ・ガーリックトースト・ハンバーグである。的を得た良い料理である。近場に、このようなキッチン風の店があることは良い事である。

飲み過ぎ。今日は創作なし。

１１月２５日（金）　快晴

山の神が、勤め先の女の方から、一昨日、比内地鶏（ひないじどり）のキリタンポ鍋（秋田名産）の二人前鍋セットを頂いた。昨日は、素庵飲み会であったので、山の神にも三分の優しい魂があったのだろうか、今晩の菜として残してくれた。しかし大食の愚息もいるので、さらにネギ・水菜・キリタンポ・シラタキ・ゴボウ・マイタケ・鶏肉・水菜を買い増して料理に突入した。まず醤油・砂糖の鍋つゆを沸騰させる。次にゴボウ・シラタキ・マイタケを投入して中火で五分煮る。次にセリ・水菜を入れ二分煮る。いよいよ鶏肉・ネギ・セリを投入五分煮て火を止め調理終了。この調理は成功。鶏肉は柔らかく、ジューシイでネギ・セリは香り高く、実に満足の味でありました。その他の物としては御飯はなし、酒抜き、白菜のお新香付でした。昼はコンビニのサンドイッチ（１９０円）に、ポンジュースの粒入りオレンジ３６０ｍｌ（１６０円）也である。朝は、トーストにバターこれに冷茶・コーヒーをつけた。しかし、何か蕎麦が食べたくて駅でかけそばを食べた。（２８０円）也。

さて、高木氏の作品「邪馬台国の秘密」には、歴史研究者が考証をすすめるにあたっての心がけねばならぬルールが書かれている。

一　後代の地名が似ているからと言って、それが古代の地名と安易に同一と定めてはならない。　二　歴史資料の年号や単語を安易に間違いであるとしてはならない。・・・このような事は、トンデモ本の作者に聞かせてやりたい。高木氏の歴史小説は、このような姿勢が保たれているのである。

１１月２６日（土）　晴

しばらく、日帰り温泉に行ってない。少し疲れ（飲み疲れ？笑）が、たまっているので、良い温泉はないかとネットで捜す。埼玉県児玉郡に「湯？白寿の湯」（上川街渡瀬３３７－１・電話０２７４－５２－５５８６・営業１０時～２３時・最終入舘２２時・年中無休・大人７００円子小学生以上４００円・関越自動車道児玉ＩＣ最寄り）に、行ってみた。設備は豪華な物とは言えないが、強調すべきは、その泉質の良さである。正に関東平野屈指であるといえる。なにしろ流れ出た温泉成分がタイルを分厚く覆っている。泉質はナトリウム・塩化物強塩という。しかしそうした事を知っていても役には立たない。ちょうど昼頃であったが、その時地元の長老達がたまたま素庵の入った野天風呂に入っていた。堆積する、温泉物質に驚きの声をあげた素庵に耳を止めた８０歳の長老が、語りかけてくれた。

「あの、千枚田のような堆積はね、ほとんどが十年前にここが始まったときのものでね、今は温泉を大分薄めているんです。余り濃いと身体に悪いと言うことらしいですな。そうして湯温も３８度ぐらいに下げて、長湯して身体に効くようにしているということです。私は身体がぎすぎすしたり痛くなるとここに来るのですが、その後数日は痛みがとれて体調がいいのです。他にもっと綺麗な良い施設があるのですが、結局ここに戻ってくるようです」素庵、これを聞いて驚愕。家の近くに、こんな温泉があったらいいなあと思うことしきりであった。食事どころの甘たれ豚丼は、そばがついて９８０円、天丼・うどんセットは８８０円で大変美味しかった。帰路は、道の駅いちごの里よしみ（埼玉県比企郡吉身町）に寄る。おお。ここは伊豆に流されていた源頼朝を支えたが、執権の北条氏に族滅された比企氏の土地だと、素庵「怒濤の歌・鎌倉幕府第三代将軍実朝の青春・銀杏は見ていた」（読もうという勇気のある方はネット

小説を読もう　春野一人　で検索してください）の作者であるから、感激する安っぽい男である。柿・ネギ・ゆず・ホウレンソウ・アイスプラント（周りに露のような氷粒のようなものがついている。シャリシャリした歯触りで、ちょっと山菜のような旨さがある）・やつがしら・ミカン（愛媛柑Ｌサイズ４５０円３箱）買い込んだ。

午後６時より、もとの会社の仲間と８人と飲み会。チゲなべ・さしみ・煮物・焼きそば・ビール・生グレープフルーツ割・カラオケである。４千円会費なり。

１１月２７日（日）　曇り

午前中は、「太安万侶」「素庵日記」筆。昼過ぎ家を出て駅の方に歩い行く。駅までおよそ2キロ、ちょうど運動不足解消に良い距離である。土曜日、車を使って歩かなかったので、今日は駅まで2キロ、買い物で2キロほど歩く。駅のユニクロで鬼妻、パンツ二本とシャツ2枚買う。しめて7千円ほどである。１２月１日が鬼妻の誕生日なのである。誕生プレゼントを買わないと、大鍋でゆでられて食べられてしまう。（作品名は明かさないが、これは有名な作品の内容である）

昼は「日高」で湯麺・ワンタン麺である。素庵は湯麺である。ラーメンを食べたいが、ラーメンは炭水化物であるから栄養なしでカローリのみというメタボには鬼門。野菜の多い湯麺を食べ、麺は意図的に食べ残す。かのベストセラー「タニタの社員食堂」などは肉ちまちま・野菜ゴッテリのオンパレードで、素庵がかって用務として勤めていた高校のランチは、まさにこれで、浅はかな同僚は「病院食」と悪口を言っていたのを思い出す。しかし長生きしたいなら、タバコなし・酒少々・おやつなし・タニタの社員食堂レシピに限るのである。

さて買い物は前言をひるがえして（笑）米国産の牛ステーキ肉が３００ｇで４８０円と安かった。貧乏な素庵は健康を投げ捨てて、これを慌てて買ったのである。夕食は従って牛ステーキ・麻婆なす・ブロッコリーのサラダ・キャベツの味噌汁・白菜の漬け物・大根おろし・しらす・（山の神は、肉料理が苦手、見かけによらず草食系である・したがって鰺の干物）

食後「邪馬台国の秘密」を読み進もうとするが、眠くなって断念。読書はまさに格闘技、五分の閑でも

本を開かなければ、読める本の数など知れたものだ。まして働きながら何かを書こうという人間は、それらに時間が取られるから、素庵はバスを待つ時間もおしい。しかし歩くことは大切であるから、歩く時間は惜しんではいられない。二宮金次郎が寸暇を惜しんで、歩きながら本を読んでいる像は子供に「あぶないね」と言われる時代である。二宮金次郎の像に「ながら読みは危ないからやめましょう」なんて札を下げる教育委員会が出てきそうだ。（笑）

１１月２９日（火）　山茶花梅雨につき曇天

日本書紀現代語訳　上下刊の内の上をアマゾンに注文。送料込みで８００円ほどである（素庵の古文解釈はいつも、解釈文→原文（漢文）→自分の訳→現代語訳チェック、この手順で自分の文章を作り出すのである。暗愚な素庵は一つの単語が解らなくて半日それに引っかかっていることがある。）で、あるからして、最終チェックのために現代語訳は欠かせない。釈日本紀や日本書紀私記といった、学者か相当な歴史マニアしか手に取ろうとしない本は、この現代語訳も解釈書が作られていない。それで、この素庵の無学にして、おおざっぱな頭で、漢文の壁に挑戦しなければならなくなるのは実に困ったものだ。

原文と現代語訳をてらしあわせると、現代語訳の執筆の学者・文学者の訳が適正か否かが、素人の素庵にも判断できて面白い。時にひどい現代語訳にぶち当たって「この先生の国語力はこんなものかなあ」という優越感に浸るばかな素庵である。そう言うわけで、今書いている「太安万侶」の田沼詩人が訳している日本書紀巻頭部分は数日後に、現代語訳を加味して改変される可能性大である。

九時まで出社しなければならない素庵は、早めに会社近くに来て、会社至近のマクドナルドで、一杯百円のホットティーを飲んで時間ぎりぎりまで読書を楽しむ。（贅沢を言えないが、リプトンのティーパックはないよな。アッサムとかダージャリンとか茶葉を使ってほしいよな。コーヒーについてもそれは言える。最低の豆ではないだろうか。素庵はかって、街のスーパーのオーナーであったが、先代が店を開いたのは戦後の１９４９年頃の事であった。この店に、大田区六郷に開業した第一パンの創業社長が、リヤカーを引いてパンを卸に来ていたという関係で、二十五年前、二代目社長に会員制クラブに招待されたことがある。そのさい社長がマクドナルドは業

界では「ネギルナルド」と言われているのです。と言ったことを思い出す。同じ値切るなら、もう少し良い品を値切って欲しいものだ。（笑）

さて、今日は忙しいながらも走り食いの悪しき習慣は踏襲せずに済み、神田の「小諸そば」で天玉そば３８０円也を賞味できた。立ち食いそばの一番は、やはり「小諸そば」、二番が「ゆで太郎」で三番が「富士そば」であろうか。緑の駐車違反摘発係ができてから、立ち食い蕎麦も街のラーメン屋も車の客を失って、繁盛するのは駐車場がある「ガスト」「バーミヤン」「回転寿司」「コンビニ」「ロイヤルホスト」「デニーズ」「すき家」各店である。しかし、ここで出されるそば、ラーメンのたぐいはたいした物ではない。したがって、そば好き素庵はしかたなくコンビニのカップそばを食べていることが多いのである。（ああ！）

夜はビーフカレー・サラダ・湯豆腐・ハム・甲類焼酎である。

１２月１日（木）　小雨のち曇り

駅に続く大通りは２キロ近く銀杏並木になっている。素庵は健康のため市民公園＋大通りで２キロ近くを通勤の時歩いて行く。今日は小雨が霧のように降っている。傘をささないで歩いている人もいるが、素庵は傘をさして歩く。朝ご飯は昨日の残りの五目炊き込み御飯におでんの残りの大根（これは、先周の土曜日。埼玉の道の駅で多量に買い込んだ大根の残滓である）を食べる。さて、公園の欅（けやき）も桜の木も銀杏の木も、大通りの銀杏並木も、昨晩の冷雨で、すっかり赤や黄色の良い色に染まっている。とりわけ大通りの銀杏は都心部では明治神宮外苑の銀杏並木に匹敵するのではないかという見事な黄色一色の世界である。頭の中で有名な歌「雨に歩けば」が静かに再生されているようでもある。これにすっかり気を良くした素庵は駅前の〇〇銀座のドトールでダブル・エスプレッソ２８０円也を注文。ミルクを入れ、砂糖を入れ、熱くてパンチがあってうまいと思う。エスプレッソは時とするとぬるい事がある、スタバでもそんな事が多いのはどういう事であろうか。こんどそんな事があったら、文句をつけてやろうと思っている肉食系の素庵である。（実は昨晩、この日の日記を書き終わって、さて投稿したら、間違えて「太安万侶」の連載に載せてしまった。・・・で消去。見た方はさぞ驚かれたであろう。「小説家になろう」サイトではこのような重大な間違いをしばしば犯しやすい。「太安万侶」は日本書紀などの人名漢字にふりがなを多用する、漢字を手書きで検索してふりがな振ってという８００字の４時間もかけた労作が「上書き保存」なしでいると一瞬に消えてしまうことがある。これなんか「あーあ」である。敗者復活はきかない、過酷なシステムである。《苦笑い》）

昼は、△道が印象的な東日本橋の「遠藤商店」（△道の内側の頂点あたりにある店である）で弁当を買う。五つのおかずが３０種類の中から五品選べる。そのあと暖かい御飯を入れてくれる。５００

円なりである。素庵の今日のメニューは、イワシフライ・ゴーヤチャンプル・わかめときゅうりの酢の物・ゴボウのきんぴら・白菜ゆず風味漬け物に、ネギの味噌汁カップ８０円を添える。

夜は、わが山の神が、彼女の姉から頂いた１万円の誕生祝いで「すし常」のテイクアウトを買ってきてくれた。我が家と息子一家に大皿２枚がほぼ一万円也である。そのほかにイカリングフライと餃子である。素庵、今日は本来休肝日であるが寿司とあっては、やめられない。焼酎甲類を飲む。

12月3日（土）　冷雨

一昨日、会社が終わった後、社長の本社転任祝いと忘年会をかねて、木更津の丘の上のホテル「ロイヤル　ガーデン木更津」に行った。ホテルの窓からは、中都市にあるような、木の多い風景が街の明かりに照らされて見えている。料理は「白和え三種」「まぐろ・イカの刺身」「魚焼き物」「吸い物」「茶碗蒸し」「天ぷら」「鍋」「炊き合わせ」「酢の物」「お新香」「御飯」など、わりと地方旅館ででるような古風な、麗しい料理なので、素庵はビール（サッポロ黒ラベル・ラガー）を2杯飲んだあと、冷酒に切り替える。聞いた所によれば地酒と言うことだが、酒名は解らなかった。デカンタに入れられた酒をコップに移して飲んでみると、これが辛口の良い酒であった。東京、浜松街界隈の居酒屋などではもっと質の悪い酒が、飲み放題の席には出されて、素庵は仕方なく日本酒はあきらめてビールを飲み続ける事が多いのだが、この酒は気に入った。今でこそ、木更津は、どちらかというとマイナーな街であるが、江戸時代は俳人・小林一茶を句会で経済的に支えた文化の街であるから、木更津の人の口が肥えているのは当然かも知れない。以前、同じように会社の飲み会で八王子第一といわれる割烹料亭「なか安」にて素庵はただ飲みして、料理、酒の美味に満足したが、このように東京近郊の元宿場街には、江戸的な料理と良い酒が残っている事が多いのである。（ただだから余計うまい！さもしい貧乏素庵である）

素庵、したがってマイペースで地酒を飲み続け、お新香で御飯まで食べて、悪酔いのない良い酒席となった。別室で行われた二次会はパスして、この日も早々床につくよい子なのである。

翌日は雨、ゴルフをするグループとしないグループに分かれて行動。五時に目が覚めてしまった素庵は自販機でホット珈琲を買ってロビーで高木彬光「邪馬台国の秘密」を読む。この作品は邪馬台国の位置について、なかなかの独特な推理が興味深い。ロビーは英国

風の高級家具が使用されていて居心地が良い。このホテルは結婚式場にも、用いられているから、良いインテリアなのだろう。朝ご飯は「鰺ひもの」「海苔」「温泉卵」「アサリ佃煮」「納豆」「味噌汁」「御飯」。比較的単純な組み合わせながら、さすがの千葉、鰺の干物焼は絶品である。ノンゴルフ組みは１０時アクアラインにて帰郷・海ほたるにておみやげを買った後、（素庵は１２００円なりのピーナッツバウムクヘンを二箱にアサリさつま揚げを土産とする。これは我が家と次男家族への土産である。東京にて素庵は、車から降りて、わが恐妻に電話する。雨だから午後から映画を一緒に見ようという相談である。

見た映画は「ＲＡＩＬＷＡＹＳ　愛を伝えられないおとな達へ」である。ＲＡＩＬＷＡＹＳシリーズ第２弾である。監督　蔵方政俊　出演　三浦友和　余貴美子　小池栄子。主人公は５９才、定年を控えた富山電鉄の運転主である。定年後はのんびり旅行でも楽しんで暮らそうと思っているが、普段あまり会話のない妻が看護士の資格を生かして働きたいと言い出す。彼にはそれが理解できないのである。ここか問題が起きてくる・・・後はストーリーになるから書かないが、「積み残した青春の夢」と「老後」についてじんわりと感動できる映画であった。個人的に言えば、素庵の母方の祖父は、富山の農家の子で、青年期神田のテイラーに丁稚奉公として出てきた人である。であるから素庵は自分の事を、やはり富山出身の落語家、立川志の輔（たてかわしすけ）（１９５４年新湊市生まれ）に似ていると思っている・・・。

田舎のない素庵は古里を富山であると思っている。映画中、立山などの富山を囲む雪の高山が走る電車の背景として使われ、素庵は呟く「ああ、富山！」

１２月４日　（日）　快晴　冷風強い

小学校六年生になる孫が、素庵が勧めた「まだらの紐」（コナン・ドイル作）をルビをふった少年向け文庫で読んだ。原稿用紙一枚の感想文書いたら、５００円あげるという、孫を読書家にしようというあこぎな戦略である。しかし、感想文は無理というので、感想を話す事で許してやった。朗報は彼の小学校三年生の妹も、それを読み出したと言うことで、素庵は上機嫌である。ところで素庵が本好きになったのは

家で小学生新聞なるものを取ってくれて文字に親しんだ事もあるし、叔父がおみやげに童話の本をくれたのもあるし、小学校の図書館で借りた「理科なぜなぜ」などの本を読破したことなどいろいろあるが、一番大きな原因は小学校高学年になるまでテレビがなかったせいでもあると思われる。

ＮＴＶがテレビ放送を開始したのは１９５８年の事であり、これから推測するとテレビ導入が早かった我が家（これには訳がある。後で書く）だから、素庵が小学５年生の時にアメコミのスーパーマンやプロレスや「バス通り裏」等をみはじめたのだと思う。当時、お米１０?で６８０円だったが、テレビは２０万円から３０万円だったと言うから、現在の米価格１０?３千円で換算すると、今の価格で百万円を超えていたのである！さて、発売早々のテレビが何故、素庵の家にやって来たかというと、素庵の家は、食料品店＆軽喫茶店をやっていたから、その軽喫茶店の客寄せに買い込んだというのが理由であった。この計略はあたり、素庵家の経済を潤した。とりわけプロレス「力道山・ルーテーズ戦」は、喫茶室の後部が煽り窓になっていたこともあって室内・外に百人以上の人を集めて驚くべき盛り上がり方で、かき氷はバカ売れで未だ素庵家の伝説となっている。

しかし、こうしたテレビの登場は少年達を文字文化から遠ざけて、

今日の出版不況の遠因となったことは確実である。

今日は、昨日のテレビ「アド街ック天国」で紹介の、横山町の衣料品問屋街を歩く。草加を歩いたときも「アド街」の翌日であったが、少々人が多いと言うのが地元の人の感想であったが、今日は、まるで成田山の初詣のように、芋を洗う混雑である。わが山の神は半値で毛皮の衣料を手に入れ、至極満足の顔であった。店の名は「ホワイトミンク」であった。

12月5日（月）　晴

小学校六年生の孫が、「まだらの紐」を読み切ったといったので、アラン・ポーの「黒猫・モルグ街の殺人」を、渡したら「ジジ、むずかしい」と返されてしまった。大人用の本であったこともあったが、やはりポーでは、ホラーみたいで少年には無理なのかも。少年少女向けに、岩波少年文庫というのが出ている。この中から「タイムマシン」他の文庫からモーリス・ルブランの「ルパン短編集」をアマゾンで注文した。こうして調べるとコミック本はいっぱいあるのだが、文字本は本当に種類が少ないと感じられた。岩波少年文庫は教養主義がにじみ出していて「お勉強」の匂いがする。素庵などの遊び本位の、いい加減な勉強ぎらいな人間には、面白くなさそうな本が多いと思える。アーサー・C・クラークのSF「２００１年宇宙の旅」や「宇宙のランデヴー（素庵、実はこれが一番すきである）」といった大作を始めとしたきら星のような短編集、ラリイ・ニーヴン「リングワールド」、カレル・チャペック「山椒魚戦争」、フレデリック・ポール「ゲイトウエイ」「時の果ての世界」ロバート・ハイライン「夏への扉」などは、まさに易しく訳せば、少年少女が飛びつきそうな面白い作品であるのに、出版されていないようである。（これはちょっと調べた結果を書いただけで、のちに詳しく調べてみようと思っている）

朝はホットドッグ＆コーヒー。昼はマックの「エッグマィン」＆飲むヨーグルト。夜はチンジャオロースー
・塩鮭・キムチ・御飯・ノンアルコールビールであった。

12月6日（火）　曇りのち冷雨

高木彬光（あきみつ）作「邪馬台国の秘密」を読み切った。邪馬台国の位置について、かの古田武彦さんの論証を検証しながら、納得できる「学説」ともいえる、適正な位置を、独自な思索で打ち出していた。この作品はさすがに、歴史ミステリーの金字塔「成吉思汗の秘密」の作者の次作、期待にそぐわない、知られざる名作であると思った。内容については種明かしになってしまうので、書かず、読んでもらうしかない。この結論については、もとより勉強不足の素庵にとっては、新知識であり、今まで最良のものであると思っていた「邪馬台国古田説」を越えるものであった。

しかし、歴史論文としては大変良いものであったが、論説に熱中するあまり、小説という面で考えると、登場人物の存在感がなくなって、対話集みたいなものになっているのは、「ベッドディテクティブ小説」としては後退していると思う。このことは、氏の第三作「古代天皇の秘密」を分析しながら、いずれ考えてみようと思っている。

今、「小説家になろう」サイトで書いている、素庵（春野一人）の作品「太安万侶の秘密」は、この教訓をふまえて、人物も生き生きとしたものにするために、ない頭をしぼらねばなるまい。

かっては「探偵小説」と言った、推理小説と歴史ミステリーは非常に似ているところがある。一方は探偵や警部が出てきて、犯人を証拠によって推理し、ついに真犯人を突き止める知的な面白さ、一方は歴史の謎を、史書や物証で突き詰めてゆく、面白さ・・・素庵は従来、ミステリー小説は読まない人であるが、これではいけない、人類最初の探偵小説と言われるポーの「モルグ街の殺人」を読んでみようと思っている。

今日の朝食は食パン六枚切りの一枚に、ケチャップを塗り、溶け

るチーズをのせてオーブントースターで焼いたピザ風トーストに珈琲。昼は、ナチュラルローソンの店内調理品「フィレオフィッシュ」２８０円也に九州ミカン１００％オレンジ。（少々、チーズ・揚げ物が多すぎるか？）夜はすき焼き・キャベツ漬け物・御飯一杯・３５０缶ビール一缶である。老い先長く小説創作を楽しむ為には、油、ビールをもっと減らすべきだ。タバコは吸わないから、いまの敵は、油、酒、鬼妻が差し出す甘い菓子だ。

仕事で明治通りを、南下してくると、池袋の手前、大正大学のキャンパスの銀杏並木が黄色に燃えている。おお季節よ！である。休憩の折、詩人「田村隆一」のエッセイ「僕の東京」に、目を通す。

１２月８日（木）　曇りのち雨

山茶花梅雨と、古来呼ぶだけあって毎日小雨模様が続いている。今年はとくに雨が続いているように思える。そのせいか都内の紅葉が、見事である。木曜夜のテレビ番組「和風総本家」は、素庵お気に入りの番組で、たまにこれが放送されない週があると実に残念である。番組中おすすめの紅葉ゾーンのうち椿山荘は、行った事がなく、紅葉を楽しみ食事でもしたら良いだろうな思った。朝食はご飯とレタスをバターで炒めて（バター、原発の影響で高い）ブルドッグ・ウスターソースで味をつけた、レタス炒飯にする。これにコーヒーを付ける。昼はコンビニで買ったおでん（卵・つみれ・ウインナ・はんぺん）と昆布おにぎり１コで５００円。夕食は鯖塩焼き・ロールキャベツ・サラダ・もつ煮・フライドポテト・御飯・缶ビール３５一缶であった。

さて、「太安万侶」良いところが書けた。日本書紀と古事記の文章の差から、古事記と日本書紀の性格を割り出そうと主人公達がブレーンストーミングするのだが、これがなかなか良い成果が上がった。興味のある人にはネット小説「太安万侶・古事記を書いた人」を読んで貰いたいところである。このような考察は、素庵が最初と思うのだが、どうだろう。素庵のこの考察は、他の人の文書を引用したものでないのである。（エヘン）。この後に、まだ驚くべき考察を用意しているから、楽しみにしていて欲しいものである。

都内、銀杏の黄色と山茶花の赤い色が美しい。とりわけ大田区城南島の花市場前の３００?も続く山茶花の生け垣は多くの花を着けて曇り空の下でも空があたかも銀色であるかのように思える日本が的な非常な美しさである。素庵が日本画家なら、画にする所であろうに！この風景をみると脳裏に「人間（じんかん）いたるとこ青山（せいざん）あり」の言葉

が浮かんでくるのであった。

１２月１０日（土）　晴

今日は恒例の「ちい散歩の追っかけ」催行。この、追っかけは、ブルーガイドブック「ちい散歩」２００７年２月９日版の本によっているのだが、後日の為にデータを記しておきたい。「ちい散歩」はテレビ朝日の月～金曜日、朝九時五十五分から十時半の番組で、２００６年４月３日から始まった。

案内役の「ちいさん」の本名は地井武男さんで、１９４２年５月５日千葉県八日市場生まれで、俳優座養成所第１５期生を経て、映画、テレビ、ラジオに出演している。趣味は絵とゴルフである。

製作はテレビ朝日映像で、この会社はもと、東映系映画館向けのニュース映画（テレビが放送される以前は、映像によるニュース、映画館で上映される映画館ニュース映画のみであった。今、テレビで流される古いフィルムによる映像・・・これは、いわゆる画面に雨がふっているからすぐ解る・・・のでどころは、映画館ニュース社のものなのである）を作っていた。資本金は７５００万円で純資産１５億円従業員数２３５名、２００８年３月期で売上高１１４億円であるという。主要株主は株式会社テレビ朝日と株式会社朝日新聞社と東映株式会社であるという。制作番組は主だったところでＡＮＮニュース・やじうまテレビ・モーニングバード・報道ステーション・人生の楽園・笑顔がごちそうウチゴハン・徹子の部屋・シルシルミシル・題名のない音楽会・土曜ワイド劇場と多数である。（素庵がこだわって書くのは、これと似た会社に「読売映像」《過去に松竹系ニュース映画、讀賣国際ニュースを作っていた、日本テレビ系プロダクション》に若かりし素庵が働いていたからである。この会社の製作は主だったもので、世界水紀行・ジャイアンツ広場・ぐるぐるナインティナイン・大田光の私が総理大臣にナッタラ・ナニコレ珍百系・激撮影２４時・そうだったのか池上彰の学べるニュース・新日本探検隊・コレってアリですか・がある。やめないでは

たらいていれば今はディレクター（ああ！）。

さて、今日は入谷界隈を歩いた。我々は「ちい散歩」のラストから、スタートの方へ逆に歩いた。ここから線路沿いを北西に歩くと俳人の正岡子規がすごした庵があるが、入館料５００円はちょっと高いので、外観を見ただけある。（ケチである！）尾久橋通りにでて南東に歩くと根岸小前交差点に、３１０年前、宮様のお供をして、やって来た老舗、「笹の雪」がある。夏目漱石と高浜虚子（俳人・小説家）が「人はなんだこんなものと通り過ぎるかもかも知れず。僕は笹の雪流な味を愛す」と、明治３９年４月４日に言葉を残している店だ。土曜日は２６００円から料理があるが、今晩は家族で忘年会があるので、残念ながらパスする。その先「東日暮里四南」を右折した。柳通り交差点まで８００？直進。右に曲がり更に８００？直進し、根岸一丁目を左折して２００？直進すると、朝顔市で有名な「入谷鬼子母神」に着いた。さて、「ちー散歩」は、ここで終わりであるが、そのあと界隈をぶらぶらしていた素庵愚夫妻は人が群れるパン屋を発見。「グーテ・ルブレ」といい、石窯でパンを焼いているのと、安くてうまいのが人気と思われる。安い、（安い方が優先である！）うまいに目がない愚夫婦、パンを早速買い込みました。

１２月１１日（日）　晴

朝食は、きのう買った、長ロングウインナーパンを切ったもの（フランスパンの生地に、ウインナが入っている。石窯いっぱいの幅で長さが決まるという。５０?に切って売っているので、本来の長さは不明）に栗パンとサツマイモパンを皿に載せて・珈琲をそえる。朝食前は「太安万侶」と「素庵日記」筆。　何日か前、日テレの番組「イッテＱ」のメンバーで作ったクリスマスツリーを見に行こうと決めていたので、出かける。それもあるが最近の汐留を楽しみに行くのも出かける理由の半分である。この期待はあたり、早速、パナソニック電工　汐留ミュージアムに出くわした。無粋な素庵もとより、最近の美術館事情などにうとい。この美術館がルオーの絵を１９２点を所有していること、ルオーの絵も交えての企画美術展をやっていることなどは知りもしなかった。目下、１２月２０日まで「ウィーン工房１９０３－１９３２」を開催中であった。素庵、例によって入館費７００円という安さにひかれて、入場。「ウィン工房」の思想は、生活全般を良い趣味の美で包もうというものであったという。この美術展では家具、照明、食器に至るまでの作品が展示されていた。素庵は、そのなかでも、ジャポニズムの影響を受けた、精緻な美しい彩りの七宝焼の皿に見せられた。「ウィン工房」の末期に活躍したデザイナー「上野リチ」は、日本人建築家上野伊三朗と結婚して、この名となった。結婚後京都に移り住んで活動したという。今回はその「上野リチ」の作品が多く展示されている。嬉しいことに、入場者は非常に広々とした喫茶ルームでコーヒー・紅茶を半額の２００円で飲むことが出来る特典があり、素庵は「もうけた」と、ご機嫌になり、利用したのであった。モチロン、コーヒーは香り高いものであった。

そのあと、日テレで「クリスマスツリー」と宮崎駿（みやざきはやお）の手になる

12月13日（火）　雨のち曇り

鞍馬天狗の作者として知られる「大佛次郎（おさらぎじろう）」は、猛烈な読書家であった。鎌倉の女学校の教師をしていたときも嘱託として外務省に勤めていたときも（氏はフランス語が堪能だったからである）給料を上回るお金を、本の購入にあてて、本屋の丸善に多くの借金を作っていた。あまりに丸善に借金があるので、他の本屋から本を買ったら丸善から、「あなたの才覚を見て、丸善はあなたに売っているのです。借金を気にしないでください」と言われたという。外務省に勤めながら小説とフランス文学の翻訳・翻案を始めていたが、それだけでは間に合わず売れ筋の「髷物（まげもの）」（時代小説）を書くようになった。その第一作が大正時代、巻頭大震災後の娯楽雑誌「ポケット」に載せた「隼の源次」だと言う。

素庵が、今日「大佛次郎氏」の事を書こうと思ったのは、ほんの気まぐれに過ぎないのだが、調べてみたら、素庵が今読んでいるエドガー・アラン・ポーの名作「ウイリアム・ウイルソン」が、「隼の源次」の原作であるというから、その偶然にびっくりである。

作家修業中の素庵、この辺で、ミステリーもしっかり押さえておきたいと、コナンドイル「まだらの紐」などのシャーロックホームズ短編集。ポー「黒猫」「モルグ街の殺人事件」「アッシャー家の崩壊」「ウイリアム・ウィルソン」などの入っている短編集を読んでいるところなのである。

ここは、さっそく「隼の源次」を手に入れて読もうと思った。この際だから「鞍馬天狗」シリーズの第一作「鬼面の老女」（すでに持っている）も読んでしまおう。大佛次郎は「鞍馬天狗」を、この一作限りとするつもりであったのはシャーロックホームズシリーズが余り好きでないコナンドイルと良く似ていて面白い。

大佛次郎は、司馬遼太郎の先駆と言うような人で、司馬遼太郎も本の人であって、氏が小説を書き始めると、神田古本屋の関連の資料が値上がりするという伝説があったが、大佛次郎にもそのような伝説があったという。　良きかな本の虫！である。夕食「エリンギ、シメジと牛肉の炒めもの・餃子・もやし味噌汁・御飯・ビール一缶（３５０ｍｌ）」　「隼の源次」図書館にあるかＰＣでこれから検索しようと思う。

老いらくの恋に似たるか本狂い　　素庵

１２月１４日（水）　曇り

応接セットのテーブルに、数ヶ月文芸春秋が一冊置かれている。見れば平成二十三年十一月号であるから、十月のころ買ったのであろう。さて文藝春秋は、タイトルに惹かれてたまに買うが、虫食い状態に読むので、いつまでも捨てきれず、部屋のそこら辺に転がっていることとなる。この本は「１００歳まで元気な人の秘密ー長生きする人の共通法則」という、素庵には非常に魅惑的な大型特集を組んでいるから、恐らく電車のぶら下がり広告を見て買い込んだものであろう。（いまなら、素庵日記に記すであろうが、この頃は長年書き続けていた三年連用日記は書かずにいたから、買い込み日時は忘却されたのである）

ここに登場する人々はいずれも当代元気老人である。名前を列挙すると、中曽根康弘・瀬戸内寂聴・有馬稲子・やなせたかし・森光子・金川千尋（８５歳、現役経営者）・正治歌江・三浦雄一郎・山川静夫・石原慎太郎・曽野綾子・宮本輝・中村吉衛門・由美かおる、の皆さんである。今日のテーマは長寿に絞って、この号のもう一つの特集である、「角栄の恋文」に興味を持ったが、後日、これについては記すことにして、今日は書かない。

人々の長命・元気の法則を単語で拾ってみよう。中曽根氏、座禅・好き嫌いのない食・野菜・小量の酒・羊羹・納豆・ヨーグルト・新聞三紙を読みつつ長い朝食・食事を?む回数・週一ゴルフ・散歩・腹立てない・睡眠八時間・絵を描く・俳句・お風呂で歌うシャンソン・生きがい・目標を持つ。

瀬戸内寂聴さん、小説書く生き甲斐・断食で好き嫌いがなおった・現代語訳源氏物語を書く・歩行の荒行・オペラ原作創作・引っ越し魔・一度病気にかかって気をつける・玄米菜食・肉でも何でも食べる殺生坊主・熟睡・トキメキ・心の自由・仏教の勉強。・・・後は、

また明日書こう。

ポケットに百円玉だけど青空　素庵

１２月１７日（土）　晴ながら寒風

今日は恒例「ちい散歩・巣鴨界隈」を素庵・山の神・愚息の三人で歩いた。ちい散歩を正しくなぞって、朝１１時、ＪＲ巣鴨駅下車。まずは駅前の大通りを渡り、フルーツの松岸にて、有名品かりん飴（５２５円）を買い込む。これからの季節、良品の花梨飴は欲しい一品である。高血圧に効果があるという赤松の葉もおいてあるという、特殊野菜・果物などがとくいな店なのである。俗にいう「おばあちゃんの原宿」とは「巣鴨地蔵通り商店街」のことである。この商店街の入り口に「雷神堂本店」がある。雷神堂は各地の観光地にある焼きたてせんべい屋で、その本店がここである。雷神堂のせんべいは日頃、素庵のひそかに愛する品である。何と云っても、草加せんべいに対抗できる良質の生地を使っている。焼きたてせんべいは、柔らかめでうまかった。さてそうこうしているうちに「とげ抜き地蔵」に到着。たわしでゴシゴシの、昔の娘達が五十人がとげ抜き地蔵（こちらは本堂に安置）ならぬ洗い観音に群がって、頭の悪い人は頭を手癖の悪い人は手を洗うため（笑）順番をまっている。めんどくさがり屋の素庵、洗い観音は避けて、当然ながら、ご本尊に十円玉数枚を賽銭として、願をかける。しかし、かくのごとく零細企業の賽銭銭であるから、願い可通じるかどうか、怪しい所である。

その先の「ヤマノ」は、チリメン、煮干し、ワカメなどを扱う乾物屋さん。素庵は、地方直送の竹輪を買ったが、ちょっと味見した、干し桜エビは大変美味しかったが、買いそびれ後悔している。「ああ、タマネギと合わせて、かき揚げにしたかった」と、言っても後の祭りである。今度いったら是非買いたいものである。さて、おなかも空いて、先ほど見かけた「越後屋正元　炭火焼ひもの食堂」に入った。（これは、ちい散歩に記載のない店である）店頭で店長と思われる中年の人が、忙しそうに魚を焼いている。ホッケ、キンメ、

サバなどが上からつるしてある。この店頭の景気の良さに惹かれて店に入ると、中は広くて、江戸時代的な内装がシックなきれいな店である。キンメ定食・ホッケ定食・サバ定食を注文する。愚息、生ビール一杯、素庵、今日の寒さが身に応えて熱燗二合トックリである。恐らく新鮮な干ものを、１キロと離れていない豊島卸売り市場から仕入れているのであろう新鮮な干ものは、いずれも美味である。

巣鴨に来たら、ここに寄りたいと思わせた。会計しめて４５００円ほどであった。その後、大学芋を買ったあと商店街の外れ、都電（チンチン電車）庚申塚駅ホームに面して、甘味&食事の「いっぷく亭」がある。目玉焼きを乗せた焼きそばとオハギのセットが６５０円で人気であるという。餅米を使ったオハギを3コ買った。（６００円）。

腹一杯の我々であるが、甘い物は、目が欲しがる。大学芋屋、「おいもや庚伸」を発見、オハギを土産として買ってあるのに（夜食べた。愚息言うに東京一だそうだ。うまかった！）これも買う、メタボどん欲な一行である。庚申塚駅より終点の三ノ輪橋駅までチンチン電車で優雅な旅をする。沿道はバラと山茶花が美しい。終点のジョイフル三ノ輪橋商店街にて、素庵のコートと夕食の漬け物とを求む。このことは後述するが、ここも住みたくなるような良い商店街である。お新香は特に絶品である。

12月18日（月）　晴なれど寒い

「太安万侶　古事記を書いた人」の古事記と書記、両書の神生みとイザナギ、イザナミによる国生みを検証し終わった。これによって、古事記と日本書紀の成立年代に相当の差があることが、証明できたと思う。

　これによれば、太安万侶の古事記における序文の年紀が嘘であると言うことになってしまう。太安万侶本人がこの序を書いたのであるならば、そのような誤記はあり得ない。この序が他の者による創作文である可能性が高い。日本書紀以上に精緻な本文にくらべ、年号すら怪しい序文は、どうも一体のものとは考えずらい。古くからあった史書に、後年、序が書き加えられた可能性がある。日本書紀は成立してから、宮廷でしばしば、書記成立に関わった博士によって内容についての解説会が開かれた。その第1回目の解説者は太安万侶であったという伝聞が存在する。また書記編纂に関わったという伝聞がある。これらの伝聞ははいずれも、日本書紀の解説会の内容を記録した「日本書紀私記」が出所である。以前、図書館から「日本書紀私記」を借りたが、解説なしの、オール漢字の原文であったから、言うまでもなく浅学非才の素庵の理解できるものではなかった。それで、その後何か良い本がないかと捜していたのだが、吉川弘文館から、「日本書紀私記」の解題も含まれている本が出ていることが判明した。「国史大系書目解題下巻」である。古書ですら一万円という高価な本である。あいも変わらず年中貧乏な素庵であるから購入出来る品物ではない。（笑）このようなとき図書館は大変貴重である、ネットでしらべると市の図書館に、この本はあるようだ。ただし、館外持ち出し不可となっているのは残念！（一万円で売れるものな！）何日かは図書館に通わねばならなくなった。したがって、この小説の先は、少しのあいだ、まだ始まらないのである。ちょうど今日は図書館休館日（月一度なのに、大当たり！）、

明日は炉端焼きで忘年会というありさまで、しばらく、愛読者にお待たせとなるので、素庵、春野君を叱っておきます。（笑）

さて、エドガー・アラン・ポーの「モルグ街の殺人事件」「黒猫」「ウィリアム・ウィルソン」「アッシャー家の崩壊」「赤死病の仮面」を含む岩波少年文庫短編集をやっと読み終わった。ポーは世界に先駆けて、恐怖小説と推理小説を書いた人であるという。今から思えば、いずれもシンプルな話であるが、恐怖小説とミステリー小説の原型を知るためには必読の小説であると思った。「ウィリアム・ウィルソン」は人間の持つ二重人格性を描いて、オスカー・ワイルドの「ドリアングレイの肖像」スティーブンソンの「ジキル博士とハイド氏」が創作される原因となったという。恐怖小説の「黒猫」「赤死病の仮面」からはあＳＦの吟遊詩人と言われるレイ・ブラッドベリが生まれる事とはなった。（素庵が好きな作家である）世界に先駆けた推理小説「モルグ街の殺人事件」からはコナン・ドイルの「シャーロック・ホームズ」シリーズやモーリス・ルブランの「怪盗ルパン」が生まれたという。ポーは詩人でもある。

今日（日記を書いている１９日）北朝鮮の金正日が亡くなったことをＮＨＫラジオで知った。世界はめまぐるしく変わるのである。韓国と日本と米国は、ちょっとした臨戦態勢に入っているようである。さて、どのようなことになるのであろうか。

１２月２１日（水）　晴　森田監督死す。

軽バンで配送中、森田芳光（もりたよしみつ）監督の死をＮＨＫラジオの臨時ニュースで知った。運転中の素庵は、あたかも兄弟が死んだような落胆と悲しみにとらわれた。そのとき江戸川を渡る鉄橋の上から、冬の太陽が河に反射してキラキラ光っているのが眺められた。

森田君と素庵が始めてあったのは、素庵が大学の放送学科学生自治会長（ちなみに、わが子分、高柳房義（たかやなぎふさよし）が芸術学部の自治会長だった、つまり素庵は黒幕（フィクサー）であったのだ！）で、四年生だった時だった。人気に浮かれすぎている放送界に一矢を射ようと吾が友、矢野重臣（やのしげおみ）と、放送批評同好会「放送研究集団Ｑ」を立ち上げたとき、口をひん曲げる表情が印象的な一年生森田君と二年生渡辺猛（わたなべたけし）君が入ってきた。この席で森田君は「マスコミ記者の仕事をしたい」と言っていたのを素庵は覚えている。落語研究会にも入っているとも言っていた。しかし、この会の立ち上げは一回きりで終わってしまった・・・以後彼との直接のつきあいもなかった。

森田監督はディビットリーン監督の「ドクトルジバゴ」に感動して、映画の道を進み始めたと言うから、歴史好きな素庵風に検証すれば、森田君が監督をめざし始めたのは「ジバゴ」が制作された１９６５年であったから１９６５年には１９５０年1月生まれの森田君は「ジバゴ」封切りの時は１５才か１６才であったはずである。それから考えると、おそらく、素庵が森田君にであった、森田君大学一年生の時には、まだ進路を決めかねていたようである。話しによると保険会社に就職してから、高価なフランス製８ミリカメラを買い込んだようであるから、大学在学中に、映画の道にめざめたというところであろうか。

デイビットリーン監督は寡作な人であった。有名作に「アラビア

のロレンス」「戦場に架ける橋」「ドクトル・ジバゴ」がある。この三作は詩情（リリシズム）あふれた非常に素晴らしい作品で、素庵も大好きで、今現在も、その名作の秘密を解明すべく、読もう読もうとパステルナーク原作小説「ドクトル・ジバゴ」が手元においてあるのだが、それが果たせない。スピルバーグ監督は、映画製作に入る前に、前記三本を必ず見るという、事である。スピルバーグ監督は１９４６年生まれ、素庵と同じ年生まれであり、子供の頃ディズニー映画が好きで、ＳＦが好きという点は素庵と良く似ている。しかし似ていないのは、片や溢れる才能、片や消そうな才能というところである。

森田君とは、二年後また出会った。私が大学を横に出（五木寛之氏が中退をこのように言う）ニュース映画社で働き出して、その給料で１６ミリフイルムで取った作品（今から思うと素人がプロのフィルムで、お話らしいものを撮ったというだけの作品だが・・・）を、発表しようと、草月が主宰する、自主映画作品コンテストに出品した時だった。「なぜ、８ミリで撮らないのですか」と聞かれたのを覚えている。このコンテストは、折から大学紛争のあおりを食らって、開催中止となってしまったが、それから一年後、フランス語学校アテネ・フランセで行われた「フイルムアンデパンダン」で森田君と再会、彼の新鮮な８ミリ作品「ウエザーリポート」などたくさん見たし、素庵の１６ミリ作品（これは、個人が１６ミリフィルムを使って作った作品としては先駆けであったろうと思う。カメラは報道用のゼンマイ式ベルハウエル・フィルモＤＲ、三本ターレットレンズを用いた。エルモの１６ミリ、磁気録音・音再生のエルモ映写機も買った。）も、映写された。

しかし、素庵にはボヘミアン的な、詩人ランボー的な中原中也的なとでも言うべき放浪へのあこがれがあって、映画の道からそれてしまった。（素庵は１９７２年に創刊された情報誌「ピア」の招待作家【自称である。作品発表の時は連絡をくれという葉書きが「ピ

ア」から来ただけである】であったのに！スピルバーグになりそこねた！）立ちん坊・手配師・桜正宗の配送員・重量鳶・夜泣きラーメン・沖仲士。その挙げ句の果てに、疲れ切って、オヤジのスーパーを手伝うと言うところに落ちついてしまった。オヤジの店に可愛い女店員がいた、それが、素庵の山の神となった。映画、サヨナラである。

今、森田監督のリリシズムあふれた８ミリ作品を思い出す。監督になってから、名作もあるが、まだまだ本来の、自由さが現れていないと思っていた。そんな時にこの訃報を聞いた。素庵、誠に残念である。素庵が作家になった暁には昔話をしようと思っていたのに・・・。

１２月２２日　曇り　寒い

北陸では雪がさかんに降っているようである。日本海の水温が、例年より高く、蒸気が多く発生したところに寒気が強めなので、この大雪の原因であるという。トーストと珈琲で朝食をすませたが、駅で立ち食いそばに入って、かけそば３６０円也を食べた。折からの寒さも手伝って、熱い蕎麦は格別の旨さだ。

安い蕎麦、されど蕎麦である。素庵、新宿高島屋ができたころ、舘内の東急ハンズのイベントの、「新蕎麦を打つ」というコーナーで、蕎麦打ちに参加したことがある。その時打った蕎麦は、素庵の性格を良く表しているような乱切りの見てくれ悪い蕎麦であったが、香りといい、味といい、最高の蕎麦であったと、いまでも思う。

さて、暮れの街の環七も環八も山手通りも、殺気走った車で満ちあふれていて、弱気の素庵ゴメンゴメンと走る有様である。会社の皆さんは、一次忘年会はとっくの昔で、今や四次、五次忘年会で、飛行機・船・車のメカ物が好きなＦ氏などは三連休は久々の休肝日にしようと宣われている。

幸いなことに素庵はそんな、狂騒と無縁な所に佇んでいる。コンビニでトイレを借りたときには、買う物はノン・アルコールビールと決めていて、ノン・アルコールはサッポロが一番、サントリーが二番、キリンが三番、アサヒが四番だと思っている。昼は、タニタの社員食堂の乗りで、セブンイレブンのキャベツサンドに熱お茶缶という事が多い。素庵は生き残ってあと三十五年は小説道三昧の青春人生を送りたいという妄執を持っているが、どうなる事やら。・・ＮＨＫラジオ第二、朝十時から十時半まで「カルチャーラジオ」というのを毎日聞いているが、しばしば、昔の放送のテープを流してくれる。志賀直哉・武者小路実篤・古今亭志ん生などなど、それを聞いていると勉強になるが、どんな、優れた人でも「人は老いる」とも感じる。元気な内が花である。体力だけは維持しなければなら

ないのである。

市立図書館にネットで予約してあった「大佛次郎時代小説全集・第２４巻」（ポー作ウイリアム・ウイルソンに触発されて書いたという、「隼の源次」が入っている。朝日新聞社刊）と化学雑誌ニュートン２００年６月号・２００８年１２月号（前記は、今話題の重力粒子「ヒッグス粒子」、後記は「虚数なるほどよくわかる」が載っている）を借りてくる。日本書紀私記解題は、２０ページ余りを図書館でコピーして持ち帰った。（安価なら買うのだが、高価で貧乏素庵には手が出ない。素庵風「自炊」である。夕食はホイコローとカボチャ煮物とおでんとイカリングフライと御飯一膳・ノンアルコールサッポロ缶である。お風呂には「バスロマンほのかなゆずの香り」に、ここ数日ゆず２コ入れている。（ちょっと変だね）

１２月２３日　（金）　曇り

天皇誕生日で、素庵も休みである。しかし空は厚い雲に覆われ、寒風が吹き荒れている。もとより軟弱な素庵であるからもちろん晴耕雨読の人となる。

読書ならぬ映画鑑賞は、こんな時、わが習いである。今日は「ニュイヤーズ・イブ」を観る。監督は「プリティ・ウーマン」のゲイリー・マーシャル監督である。「プリティ・ウーマン」は、「マイフェア・レディ」を原作とする作品だが、この「マイフェアレディ」も、劇作家、ジョージ・バーナードショウの「ピグマリオン」の改作である。しかしこの作品も、シェイクスピアの「じゃじゃ馬ならし」の改作ではないかと疑われている。

さて、その「プリティ・ウーマン」を、良い作品に仕上げた、ゲイリー監督が、ニューヨーク・タイムズスクエアのカウントダウンを迎える、多くの人のドラマを、感動的にまとめているのが「ニューイヤーズ・イブ」である。カウントダウンの雰囲気が伝わってくること、ロック・スターのボンジョビが歌手役でしびれる歌を聴かせてくれること、多くの人々のちいさなドラマが大きなドラマの合唱となって、人生が素晴らしいものであると思わせてくれることなどなど、「がんばろう」という気持になる映画であった。脚本はキャサリン・ファゲイト。名作「バレンタイン・デイ」（ゲイリー監督作品）も「プリティ・ウーマン」も、彼女の手になっている。

映画の後は、ハッピーな気持で「寿司常」で、二時半より早めの夕食とする。生ビールを一杯飲んだ後、秋田の純米酒一・五合ほどを楽しむ。良きかな人生。

冥土への一里塚かな今日の日も　　素庵

１２月２７日（火）　晴　寒　東北雪　由紀さおりについて

「由紀さおり」と米国のジャズ・オーケストラ「ピンク・マルティーニ」とのコラボレーション・アルバム「１９６９」がｉＴｙｕｎｅｓ全米ジャズチャートで第一位となり話題となっている。

由紀さおりは１１月１７日にロンドン「ロイヤル・アルバート・ホール」で米国・オレゴン州のジャズオーケストラ「ピンク・マルティーニ」に、「ＢＢＣコンサート・オーケストラ」を加えてコンサートを行い、大盛況の内に終了させたという。

曲目は、夜明けのスキャット（本人の歌）・ブルーライト横浜（いしだあゆみの歌より）・さらば夏の日（フランシスレイの映画音楽より）・夕月（黛ジュンの歌より）・マシュケナダ（セルジヲメンデス＆ブラジル６６の歌より）・真夜中のボサノバ（ヒデとロザンナの歌より）・パフ（ピーターポール＆マリーの歌より）・いいじゃないの幸せならば（佐良直美の歌より）・イズザットオールゼアイズ（ペギーリーの歌より）・私もあなたと泣いていい？（兼田みえこ歌より）・わすれたいのに（ザ、バリスシスターズ歌より）・季節の足音（本人新曲）・・・である。

素庵などは１９６９年当時ヒットした「ＹＭＯ」やジョンレノンのアルバム「ダブル・ファンタジー」やピンクフロイドも好きであったが、最近のものには乗れなくなってきていたので、年とったせいかと半分思っていたが、それがそうではないことが証明される現象が起きた。最近の素人のような歌に首を傾げていた素庵は間違っていなかったのだ！ＮＨＫラジオ第一の「ラジオビタミン」は素庵仕事中の愛聴番組であるが、昨日は音楽評論家を呼んで、今年の音楽総ざらえをしていた。その中で、韓国のＫＡＲＡや少女時代が日本で人気がでた背景として、日本のグループがプロではないからで

あると断言しているのが印象的であった。

この点で言えば、由紀さおりの歌はプロ中のプロであり、まさに、プロの神様、美空ひばりの域まで達していると言える。由紀さおりの良さを世界が知らなかっただけの話である。１９６９年の頃は各大学で全共闘運動が活発であり、月に人類が始めて降り立ち、ラジオではニールセダカやコニーフランシスやパットブーンやプレスリーやビートルズが全米のヒットチャートで人気があり、日本でも坂本九やパラダイスキングや上記佐良直美（さがらなおみ）などのポップな歌が人気を得ていた。その時代において、由紀さおりの「夜明けのスキャット」は、群を抜いた良さを持っていたのである。

そういえば、先月、ＮＨＫＦＭで、由紀さおりが突然の世界的ヒットに自分自身驚いたという発言をしていたのを素庵は思い出した。そうだろうなと素庵もまた思ったのである。（若かりし素庵、映画会社で仕事の頃、テレビスタジオの待合室で若き由紀さおりさんと偶然二人っきりで同室したことがあった！綺麗な人であった！）

年寄りを舐めちゃいけない塩辛い　　素庵

１２月２９日　（木）　晴、やや寒

昨日は、山の神の父の墓参りに行った。義父の墓は、システム化された、マンション墓である。普段は収納庫に遺骨が納まっているが、専用カードまたは自宅の電話番号の入力で、ベルトコンベアーに乗って、遺骨はしずしずと祭壇にやって来る。この権利の取得には８０万円と年に一万円の維持費が必要である。当今、墓石の墓を手に入れるためには３００万円もかかる事に比べれば、格安ではある。それが横浜、白楽にある。ＪＲ東神奈川駅を降りて、駅前の大型スーパー・イオンで仏花を買った。大道りを西に歩いて六角橋の商店街を右に折れて行くとやがて、仏寺の営むそれがある。（ＮＨＫラジオの朝の番組で和辻哲郎《哲学者・文明評論家》の「古寺巡礼」の朗読を先日聴いたのだが。なんだかその口調に似てしまった）

東横線白楽駅で降りれば、お寺まですぐなのであるが、健康のため、あえて東神奈川駅から３０分ほど歩くコースをとる。・・・午後家に戻り、要介護３、認知病、９０才のわが母を訪問する。去年の正月は、母は我が家にいて、なにかと山の神の神経をいらだたせていたが、インフル性肺炎で死線を彷徨った後、病院からリハビリ施設に入ることができたおかげで、我が家に静寂が戻った。これが、一昔前であるなら、介護保険を利用することも出来ず、相変わらず、わが夫婦は苦節を重ねているであろうから、まことに感謝すべきであろうと思う。

しかし、それの代わりと言ってはなんだが、アパートを借りていたバツイチの長男が我が家に戻ってきた。サービス業に従来、従事していたが、それをやめた。年末に４日間、５万円の費用でフォークリフトの教習所に通い、免許を取った。来年には、ハローワークに通い、仕事を探すという。

その後、施設のそばの、大型スーパーで、夕食のためのすき焼きの材を求めた。

今日は朝三時に目覚め、七時まで「太安万侶」を書いた。日本書紀私記（宮中における日本書紀講読会を記録したものである）に現れる、太安麻呂の残像を掘り下げた。朝食は素庵が、ホットケーキを焼いた。ハムとブルベリージャムを添える。それにコーヒーと紅茶である。

それから、年末の掃除にとりかかる。エアコンのフィルターを外し、バスルームで洗う。たった一枚しかない障子の張り替えの為に、残った御飯を鍋でのりにする。財布、バッグのなかを乱雑にしている、領収書やサービス券や新聞の切り抜き捨てる。

昼近くまで、そうしていたが、やがてそれに疲れて、歩いて３０分ほどの川崎大師まで健康をかねてお札を納めに行く。成田山で買った達磨・社寺のお札を持って行く。戻り道、懇意な中華そば屋「テンホウ」で、昔ながらのチャーメンに冷酒を食する。（美味！）夜はカレーライスにサラミ、カマンベールチーズ、クラッカー、鶏手羽からあげである。テレビ「和風総本家」、お正月のしきたりを特集している。

アマゾンに注文してあった、「質量はどのように生まれるのか」（講談社、ブルーバックス）が届く。重力の元である、ヒッグス粒子の謎に迫っている本のようである。素庵、このような「宇宙の謎」にせまる本が好きである。お正月の閑をあたためるには最適な本で、楽しみとしている。

１２月３０日（金）　晴　寒

群馬の方では、青空に雲一つないのに、雪がちらつくと言うことがあるそうだ。日本海側に降る雪が山を越えて吹き飛ばされて来るのだという。あたかも桜の花びらが、桜の木がないのに散ってくるに似て、風情のあることである。しかし東京にはただ冷凍の風がやって来るだけである。

したがって晴耕雨読の素庵、寒風は雨に似たりと今日の「ちい散歩」の旗を巻いて、朝食（昨晩のカレーの残り）の後、雨読、つまり映画を観ようと、予約のためパソコンにしがみついた。今日の映画上演目の中で素庵が観たいのは、素庵の「太安麻呂」に似ている、高山由紀子の小説「源氏物語　千年の謎１」の映画化作品「源氏物語」である。しかし山の神、同道ということで「リアル・スチール」・「タンタンの冒険」・「けいおん！」の中からすったもんだのすえ選んだのは一番観たくない「けいおん！」であった。「まあ勉強だ」とふてくされて呟いた。

山の神は、女子高校卒であるから、同じような状況が描かれたアニメであるから、懐かしかったという感想であった。素庵には、ドラマ性がかんじられなかったが、卒業する四人の三年生が秘かに、もう一人の一年生の可愛いメンバーに歌を作って贈ると言う内容が、中高生の興味を引くのではないかと思う。素庵も、歌をつくる事がある。「歩いて行こうよ」という歌である。これは素庵の詩に、湘南でウクレレクラブを主宰している青木さんという方が曲をつけてくれたものである。だから素庵には、歌が生まれてくることにもはや、新鮮な感動はないから、この映画の良さがわからないのかも知れない。

２０１１年１２月３１日（土）　晴　寒

素庵日記を書いていて、下調べで映画「源氏物語」を、パソコンで調べてみたら、ナ・ナント源氏物語を映画化（素庵はてっきりそうだとおもっていたのである）したというものではなく、源氏物語執筆に関する真相に迫るというものであるというのだ。これでは、歴史ミステリーが好きな素庵は観ずにはいられない。さて、今日はそう言うわけで、それを観ることにした。

藤原道長（藤原氏最後の黄金期を築いた人。９６６年ー１０２８年）と陰陽師・安倍晴明（あべのせいめい）（超能力で数々の伝説が残る）が組んで、道長の政治的野望を充たすために紫式部に「王朝物語」を書かすという設定のもと紫式部が執筆に取りかかる。これに平行して書かれた「源氏物語」が映像として描かれる。（華麗な、平安宮廷の映像である！お金がかかったのではあるまいか！）

しかし、歴史物語としては、いくらかトンデモ本の設定のようであるのは残念であった。そもそもが、紫式部が「源氏物語」を書いたと言うのも、確証がないらしいのだ。それはともかく離婚した紫式部は、一条天皇の皇后となった道長の長女、彰子（しょうし）のおつきの女房となって、道長との関連がはじめて出来るのだから、道長が「源氏物語」によって、娘、彰子を天皇に接近させたという設定には無理がある。・・・しかし、このことに関しては、原作を読んだ後、また語ろうと思う。この、複雑な内容は映画の二時間半の長さでは少し無理かも知れないと思うからである。また、素庵も平安期に関しては詳しくなく調べてみたいと思うのである。

2012年1月1日　（日）　晴　あたたか　夕方曇る

素庵家は紅白は見ない。大晦日は十時には寝てしまった。朝九時に起床。「寿し常」の、おせちを今年は頼んだ。去年の正月は、素庵と山の神二人きりであったから、いくらかお正月っぽいもの・・・数の子・タラバガニ・かまぼこ・自家製のきんとん（金時芋を裏ごしし、飴と瓶詰めの栗甘露煮を混ぜて作る）等を用意しただけであるが、今年は三人であるから、二万ほどのおせちを頼んだ。三人ともなれば、いろいろ買い回るより楽で安価である。「寿し常」のおせち重には、数の子・タラバガニ・松前漬け・伊達巻き・黒豆・コウナゴとの甘煮・松葉ガニ・毛ガニ・煮アワビ・サザエとわさび漬けの和え物・まぐろのカルパッチョ・シャケのカルパッチョ・ホタテ貝の甘煮等がはいっている。これにお雑煮・酒である。

素庵のうちは、年賀の訪問などと言うものはなく、今日も好例「ちい散歩」である。今日は千駄木を歩いた。千代田線千駄木下車で、森鴎外が三十年住んだ「観潮楼」跡地（文京区千駄木１ー２３ー４。残念ながら記念館建設工事のため見るべきものなし）をたずねる。楼の名前のとおり、高台にあり、今はマンションなどに遮られて見えないが、当時は品川の海が見えただろう。もう一つは、漱石が「我が輩は猫である」を書いたという住居あと（文京区向丘２ー２０ー７）が見所である。

昼は川崎駅にもどって地下街の「ぼてじゅう」でミックスお好み焼き、にオムそば、で二千円ほどで満足。

さて今日、「源氏物語　千年の謎」原作をアマゾンに注文。カスタマーレビュー（読者の評判）によれば、時代考証のなっていない、メチャクチャな作品という酷評が与えられている。しかし、素庵はそれでも読む人である。源氏物語の成立に興味があるからである。もう一人のカスタマーによれば、源氏物語の謎解きならこの本が良

いですというのも買った。その内容については、何日後には書くつもりだ。

1月2日（月）　曇りのち晴れ　日中、暖かい

「源氏物語　千年の謎」の原作（高山由紀子作・角川文庫）に関してアマゾンのカスタマーレビュアーに「読書っ子」さんから、「源氏物語の執筆裏話を読みたい方は森谷明子さんの『千年の黙（しじま）』を、おすすめします」という、意見が届いている。素庵は、「千年の謎」とともに、これもアマゾンに注文した。まだ読んでいないから解らないが映画が原作によっているとすれば、原作の歴史分析が中途半端であると言える。

原作者・高山由紀子さんはウイキペディアによれば次のような人である。

高山由紀子（たかやまゆきこ、１９４５年４月４日ー）日本の脚本家、映画監督。シナリオセンター講師。東京？出身。日本画家高山辰雄の長女。慶応大卒業後映画脚本を学ぶ。本田猪四郎監督が新作ゴジラ映画の脚本をシナリオ学校生に競作させたところ、高山の脚本が目にとまり採用された。翌１９７５年、この「メカゴジラの逆襲」で脚本家デビュー。女性心理を突いたシナリオが得意であり、刑事ドラマやミステリー、時代劇には欠かせない女性脚本家の一人である。

主な脚本作品　「メカゴジラの逆襲」１９７５年・「月山（がっさん）」１９７９年・「遠野物語」１９８２年・「徳川の女帝　大奥」１９８８年・「上方苦界草紙」１９９１年・「男ともだち」１９９４年・「真幸くあらば」２０１０年

主な監督作品　「風のかたみ」１９９６年、脚本も担当・「娘道成寺　蛇炎の恋」２００４年、脚本も担当

プロデュース作品　「ＫＯＹＡ澄賢房覚え書き」１９９３年、脚本も担当

小説作品　「国東物語」１９８５年、映画化、脚本も担当・「トリナクリアＰＯＲＳＣＨ９５９」１９８７年、映画化脚本も担当・「源氏物語　悲しみの皇子」２０１０年（「源氏物語　千年の謎」は２０１１年文庫化本のタイトル）、映画化、脚本も担当

テレビ作品　「フランダースの犬」１９７５年・「シートン動物記　熊の子ジャッキー」１９７７年・「新・必殺仕事人」１９８１年・「仕事人大集合」１９８２年、野上龍雄と共同執筆・「はぐれ刑事純情派」・「メークアップ」１９９０年・「江戸中町奉行書」１９９０年・必殺仕事人　激突！１９９１年～１９９２年

２００３年　ポルトガル・フォズ国際映画祭　批評家大賞受賞

さて、今日は、車で家族八人そろって成田山初詣。素庵成田山が好きである。特に京成成田駅から成田山まで１キロ長の門前商店街は老舗のウナギ屋、漬け物屋、羊羹屋、そのほか多種あり嬉しい。素庵は鉄砲漬け（緑の浅漬けの方）、ベッタラ漬け、なす浅漬け、青竹製のぐい飲みなどを求めた。

夕食は、冷え込んできたので、挽肉団子・餃子・白菜・豚肉・糸コンニャク・豆腐・ネギ・キムチ・キムチ鍋の素でキムチ鍋とした。成田から買ってきたなす浅漬けも添えた。白い御飯が久しぶりで美味しい！

1月3日（火）　晴れ　寒風

素庵の母、悪妻の母、いずれも施設の世話になっている。今日は両所を訪問。帰りに近くのスーパーでシャケ・もやし・豚肉など夕の菜買い込む。素庵家、菜の買い置きは正月といえどもない。家に戻り「質量はどのように生まれたか」橋本省二著・講談社ブルーバックスを読んでいる。昨年末発見された、重力の源である「ヒッグス粒子」を理解（と、いっても、うすぼんやりの理解であるが）出来る本であった。今、出版されている本で、ヒッグス粒子について言及している本は数少ない。素庵は一ＳＦファンとして、この本を良書として勧めたい。

1月4日（水）　晴　あたたか

素庵の会社は、暦通りの休日である。怠け者の素庵の事であるから、休日の多さに惹かれて今の会社に入ったのである。したがって、給料は安いが休みは多い。年末二十九日から今日まで七日間休みであったが、さすがに明日と明後日は仕事がある。しかし七日、八日、九日はまた休日であり、素庵ひそかに喜んでいるところである。

毎年、お正月は関東周辺へ家族で安めの一泊旅行が習いであるが、三十代の長男が目下、会社をやめ、求職中なので、なにかと出費がかさむので今年は旅行は取りやめて、出かけるにしても、日帰りで済ませている。この長男、暮れに四日間、寒風吹き込むフォークリフト教習所で免許を取得し（費用５万円！）、明日五日よりハローワークで就職活動を開始する。

さて、今日は年末からの二つの願いであった、映画「源氏物語」を見る事と、自作「太安万侶」の為の調査として、鎌倉プリンスホテルを訪ねる事の後者の方を実行した。素庵、自作「鎌倉幕府第三代将軍源実朝」創作の時、随分鎌倉を調べて歩いたが・・・たとえば、実朝が時鳥（ほととぎす）の鳴き声を聞くために早朝遊んだ、かっては二階建てのお堂も含めて全長２３０メートルの伽藍が建っていた事で二階堂と呼ばれた永福寺（ようふくじ）の広い跡地とか、いろいろ、調査して、鎌倉については一般の観光客よりは鎌倉に詳しいと思うが、鎌倉屈指のホテル「鎌倉プリンスホテル」はまだ見聞がなかったのである。

「太安万侶」の主人公、田沼龍は若干金欠病ながらいやしくも、ちょっとは知られた詩人であり、稲村ヶ崎の山の上に自宅を構える人であるから、愛するレストランというものがあるはずである。その場所が七里ヶ浜の「鎌倉プリンスホテル」内のフランス料理のレストラン「ル・トリアノン」である。そのほかに、軽食的な「ラウ

ンジ・あじさい」と敷地内、別棟で洋上に浮かぶ江の島が見える和食と鉄板焼きの「御曹司きよやす邸」があるが、センスにうるさい田沼には青い海が広々と広がる「ル・トリアノン」がふさわしいと素庵は思った。

素庵とその悪妻は、４千円のランチを食べた。オードブル四種とサラダと十種ほどのスイーツはヴァイキングになっており、スープと魚か肉のメイン料理にホテル自家製のパン食べ放題か、ライスを選ぶようになっている。そして珈琲か紅茶がつく。素庵が広々としたレストラン内から光る青い海を眺めながらビール・ワインで至福の時を持ったことはもちろんの事であった！　※ル・トリアノンはフランス・ベルサイユ宮殿の庭園にある、離宮。第一次世界大戦の敗戦国ハンガリーと連合国が講和条約を結んだ事で有名。現在はフランス国の迎賓館となっている。

1月6日（金）　晴　寒

北陸では例年の倍ほども雪が降っている。今日は仕事始めであるが、仕事なしで、社費用による新年会であった。モルツ中ジョッキ一杯にウイスキーシングル水割り三杯を飲む。酒の肴は鳥鍋・サラダ・刺身・鶏の炭焼き等である。三時頃から始めた新宴会であるから、六時には家に着いた。素庵、飲むと書けない。今日はボウとテレビを眺めるだけである。

小説家の自伝などを読むと、とにかく原稿の前に座れと言うことが、小説執筆には重要であるようだ。素庵は狭いリビングの床に座布団を敷いて、あぐらをかいてパソコンに向かっている。（この年で長時間あぐらをかいていられるのは有り難いことだ）パソコンの画面の先には、悪妻がかってにチャンネルサーフィンをするテレビが点滅している。ときおりそちらに目をやり面白いとパソコンに集中できない。孫三人が、離れの方からいつもやって来ていて、ゲームをやったり、テレビを見ていたり、喧嘩したり、お菓子を食べたりでうるさいが、素庵にはそれを喜んでいる節がある。

孫が嫌わずにいつも来てくれる事は素晴らしいではないか。素庵がひそかに三才女・小三女・小六男を「三人の座敷童（ざしきわらし）と呼んでいるのを、やつらは知らない。

この童のために、去りゆく者は良き世を残したいと思うのだが、今や日本国は国家予算の半分が国債という借金でまかなわれている貧乏国であるから、このままでは暗い未来が待っている。

で、あるのに野党は、いつものように衆院解散を叫ぶだけで、沈み行く船の大水漏れはそのままである。とにかく消費税をあげて、国家建て直しの姿勢でも見せないことには、早晩国債の買い手がなくなって、金利が上昇し、なお一層の国難を呼び込むことは避けら

れない。ああ！

初詣　世の平安を　まず願い　　素庵

1月8日　（日）　晴　暖

昨日は、休日。午前二時に目覚め、ＰＣ入力せずに、古事記と日本書紀の出雲王朝のスサノオ生誕から
出雲の国譲りまでを読んでいた。大学ノートを開いて、左のページに「古事記」と書き、右のページに日本書紀と書き、同じ時期の記事を、対置して記入した。これは、もちろん「太安麻呂・古事記を作った人の秘密」の、創作のための下調べである。

長い休みのため、小遣いも尽きた。従って、施設の二人の母を訪問した後、駅前の東急ハンズに行き閑を潰す。粘着テープのついた、ローラー式の掃除機（ローラー３本付、１３００円、正式製品名を何というか素庵は知らない）を買う。工作のコーナーに、天体望遠鏡（１６倍）５８００円のセットが出ていて、素庵欲しくなるが、金欠病の折、買いでもしようものなら、山の神の噴火間違いなしなので断念。そのあと駅スーパーでもんじゃ焼きの材料、豚こま・キャベツ・ピザ用チーズ・メンタイ・焼きそばを買い込む。夕食がモンジャ焼の予定なので。あった。

今日は、好例、「ちい散歩」を主とした歩行を挙行。「ちい散歩」は現在、１~６まで、６冊発刊されているようだが、今日の散歩は３の両国界隈である。ＪＲ総武線両国駅ー国技館・相撲博物館ー旧安田庭園ー横網町公園ー小林一茶旧宅跡ー芥川龍之介成長地ー吉良邸跡ー江戸東京博物館　を歩いた。

もちろん、このコースは本の内容をはみ出して、自分流にしてしまっているのだ。小林一茶旧宅跡と芥川が育った地は、現地の観光案内版で急に知ったのである。この狭い地域に、これだけの見所があるのは、まったく驚きであった。

今日は、不思議なことがあった。江戸東京博物館では、特別展で「平清盛展」が開かれているのを現地で知って、楽しんで見たのだ

が、家に帰って漠然とテレビを見ていると今度はＮＨＫドラマ「平清盛」第一回が妻の手によって映された！今日が、話題のテレビ「平清盛」が一回目の放送日だと二人とも知らなかったのだが、これは「平清盛」が、向こうから飛び込んできた感じだった。

素庵の作品「怒濤の歌・鎌倉幕府第三代将軍実朝の青春」は平家が滅んで、鎌倉時代が始まった時を描いているものであるから、もちろん、鎌倉前史としての平家の興亡には強い関心がある。今日のドラマは、清盛が上皇の落胤であると設定した上で、少年期まで描いているのだが、良い歴史認識の上で、解りやすく、かつドラマチックに描かれていて、素庵、来週日曜日夜もこれにはまる事、必定である。

努力するものには運が微笑んでくれるというが、たまたまこうしたことが連続で起きるというのは、こんな素庵でも運は見放してはいないという事だろうか。悪妻も盛んに不思議がっていた。行いが報いられることを知れば、悪妻も素庵をさぞかし大事にするであろうと素庵一人でニタニタしている。

一茶の旧宅の表示が細い柱一本に書かれたのみであった。それで

こりゃまあ　小さき表示と　一茶言い　　素庵

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5504x/

素庵日記

2012年1月8日23時55分発行